

令和5年度事業報告書

社会福祉法人 八起会

- 法人本部
(経営委員会)
- 石部ケアハウス
- 石部デイサービスセンター
- 八起会居宅介護支援相談所
- 介護老人保健施設 石部ケアセンター
(デイケア併設)
- 八起会ホームヘルプステーション
- 介護老人福祉施設 もみじ
- もみじデイサービスセンター
- もみじケアプランセンター
- 特別養護老人ホーム あぼし
- デイサービスセンターにこにこ
- 特別養護老人ホーム みやのもり
- みやのもりデイサービスセンター
- 八起会みやのもりリハビリステーション
- デイサービスセンターこんぜの郷
- こんぜデイサービスセンター
- 八起会栗東居宅介護支援事業所
- グループホームみなくち
- デイサービスセンターあさひがおか

令和 5 年度事業報告書

社会福祉法人 八起会

法人本部

(令和 5 年度 総括)

新型コロナウイルス感染症の分類が 2 類相当から 5 類へ引き下げられた令和 5 年度は、これまで行われてきた規制・制限は緩和されることとなり、必然的に感染拡大のリスクが高まることが懸念されていたが、感染症の発生はあったもののクラスターが発生することなく、前年度に比べると落ち着いた状況であった。手指衛生などの標準予防策に加え、5 類移行前から実施してきた感染対策を堅持。サージカルマスクの常時着用のほか、室内での密を避け、効果的な換気を行うなどエアロゾル感染対策を実施し、いっどこで感染してもおかしくないという意識を持って、症状確認と標準予防策の徹底を継続してきた。一方、面会については、ご利用者やご家族等にとって重要なものであることから、面会制限の緩和を実施した。また、令和 5 年 7 月に元職員による不祥事件が発覚し、ご利用者をはじめ、関係各位に多大なるご迷惑とご心配をおかけした。この不祥事件を厳粛に受け止め、健全かつ適切な業務運営を確保するため、内部管理態勢、法令等遵守態勢を強化・充実し、信頼回復に向け全力で取り組むことを誓った1年でもあった。こうした中、第五次中期経営計画(令和 3～5 年度)終盤の計画に沿って、業務に取り組んだが、まだまだ厳しい事業運営は続いている。昨今の物価・光熱水費の高騰による影響が著しい。「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」が創設されたが、コストの増加金額も大きくなる傾向が強くなり、十分な補填がされているとはいえない状況である。また、電力各社のさらなる値上げが予定されており、コスト増を価格転嫁することができないことなどから厳しい状況は続くだろう。さらに、人材不足、ICT 化、LIFE への対応といった介護事業経営の環境変化の中で、収益を安定させるための経営マネジメントが益々重要になってくる。そのような環境下で、令和 6 年度は介護報酬改定が行われ、本改定では既存加算の算定要件が変わる。取得できる加算や強化された加算がたくさん出てくることから、売上改善に繋がる大きなチャンスである。目先の改定への準備を進めつつも、今回の改定内容から国が介護事業全体をどのような方針に舵取りしようとしているかを捉え、今後の事業所運営やサービス展開に役立てたい。

令和 5 年度の経営状況を見ると、事業収益面では、減少傾向が続くデイサービス等の通所系の利用率を回復に転じることができなかったことや、石部ケアセンターで看取り期の入院による退居をなくし安定した利用を維持するためのターミナルケアや空床利用したショートステイの活用等の対策を行ったものの「超強化型」への移行が当初予定の 9 月から 12 月にずれ込んだこと、「超強化型」に移行したものの退職者の補充が追いつかず稼働を抑えていたことにより目標には未達となったが、4 月に実施した食費と居住費の値上げの効果も合わせ、石部ケアセンターを筆頭に短期入所を含めた入所施設の全ての事業所で収益が増加しており、その結果、収益トータルでは 42,450 千円の増加となった。事業支出面では、賞与の減額を行ったことや非常勤職員の減少によ

り人件費が大幅な減少となった。また、経費面でも原油価格や物価高騰により経営上の影響を大きく受けてはいるが、前年に比べると光熱費の高騰が落ち着いたことによりトータルで減少した。その結果、当期活動増減差額を黒字に転じることができた。

人事面においては、介護業界で働きたいと考えている学生が減少し、「母集団が圧倒的に少ない」という背景の中、令和 5 年度スタート時に新卒者 9 名を新たに迎えることができた。将来的には、今以上に高齢者の人数が増えるため、介護のニーズはますます高まる見込みである。その一方で労働人口は減少するため、介護業界における採用の難易度は今後も上がり続けると予想される。近年は少子化の影響もあって、高卒や専門学校卒の学生は減少傾向にあるため、未経験の大卒者も新卒採用のメインターゲットにしていかなければならない。実際今年度の新卒者 9 名のうち 8 割が福祉未経験者であった。日本介護福祉士養成施設協会の調査によると、今や介護福祉士養成校の学生のうち、ほぼ 3 人に 1 人は外国人。一方で、内閣府が発表している「令和 5 年版高齢社会白書」によると、平成 12(2000)年以降、全国の介護職人口は増え続けており、一般大学の卒業生をはじめとする未経験者の入職が、介護職人口を支えていると考える。コロナ禍による不況が起こった際には、一時的に介護業界に就職する人の数が増えたが、令和 5 年卒の採用市場から再び厳しい状況が続いている。これから先、法人が学生の獲得競争に勝つためには、いかにインターンシップ、説明会、面接の質を高めて、学生に介護の仕事や自法人の魅力や魅力を伝える、様々な要件を複雑に組み合わせながら就職先を選んでいく学生にどれだけ丁寧に向き合うことができるかがカギとなると考えている。「その企業に入社したい」と最初に強く思ったタイミングを聞いた人材業界大手のアンケート調査によると、特に「インターンシップ・仕事体験参加時」の割合が多くなっている。これらのタイミングは、いずれも、法人側の担当者や職員と学生が直接顔を合わせる機会。つまり「直接接触」の機会が志望度を引き上げる。採用活動では、法人の採用担当者が自らノウハウや情報を集め、積極的に努力する姿勢が不可欠である。特に新卒採用においては社会情勢を反映して学生の就職先選び、業種選びの志向が変化するため、情報を広く収集することが重要である。インターンシップの開催も情報収集のひとつ。インターンシップは学生のキャリア形成・職業意識の醸成のために企業での実務体験をするものであるが、法人側にとっては直接、学生の考え方や働くことに対する価値観を知る大きなチャンスになる。そのためインターンシップに参加する多数の学生を集めて、業務内容や職業に魅力を感じるきっかけを与え、結果的に採用につなげるためのひとつの窓口と考える必要がある。そうしたインターンシップの活用をするには、経験と試行錯誤を重ねて、集客や学生対応のコツをつかまなければならない。学生から業務に対して疑問や質問、感想を忌憚のない意見として聞き、丁寧に回答をする時間を作る。可能な範囲で具体的な業務と一緒にこなすプログラムを用意し、単なる業務見学に終わるようなものにならないなどの工夫を行っている。インターンシップや合同説明会を開催したうえで、主に就職情報サイトを使って募集をかけた後、複数回の選考試験や面接を行う必要がある。社会人経験のない学生がターゲットなので、面接では、介護職への適性や意欲を見極める必要があり、面接官にテクニックが求められるので、面接官の育成に向けて準備を進めている。また、新卒の学生は、内定を得た複数の法人や他業種の企業を比較検討して入職先を選ぶので、これまで通り内定を出した後も、自法人を選んでもらえるように入念に内定フォローを行っている。法人が新卒採用にできる限り力を入れていくこと

が、介護業界の未来を支える人材を増やし、介護職員の労働環境を改善して介護サービスの質を向上させることに繋がる。ただ、近年、入職 1～2 年で退職するケースが増えてきている。特定の条件を整えれば改善するような問題ではなく、社会の大きな変化や、そのなかで醸成された個人の仕事観や人生観と密接に関係してくる問題のように感じる。今の職場にいる意味が見つかる可能性があるにもかかわらず、もっと良い環境があるのではと早期に見切りをつける離職。このような新人に対し、どのような支援が効果的なのかを今後検討していきたい。

外国人労働者の受け入れについては、新型コロナウイルス感染症の影響で EPA(経済連携協定による介護福祉士候補者)の現地合同説明会が中止になっていたが、令和 5 年度から再開されたため、現 EPA 介護福祉士候補生と共にフィリピン、インドネシア、ベトナムの説明会に参加した。結果、令和 6 年度候補者受け入れについては、インドネシア1名、フィリピン 9 名とのマッチングが成立しているが、ベトナムは今回も 0 名であった。加速した円安と物価高によって、外国人労働者にとっては「日本で働くこと」のメリットが低下。特にベトナムは経済発展が著しく、賃金も上がっているため、日本より条件のいい国を選ぶ人が増加しているのが現状である。令和 5 年度の介護福祉士国家試験の合格者が 1 名、EPA 介護福祉士 1 名が体調不良により帰国したため、現在、EPA 介護福祉士 1 名と介護福祉士候補生が 14 名在籍しているが、このまま円安が進行すると人材確保が困難になることはもちろん、様々な影響が出てくる。今後も日本人の採用状況を鑑みながら、EPA を継続的に受け入れていく方針であるが、外国人就労者の主流は特定技能になってきているので、試験的に特定技能制度での受け入れを進めている。外国人材をどう受け入れていくべきか、真剣に考え直す時期に来ているかもしれない。介護人材を確保するためには「お金以外の価値を増やす」しかないと考える。

一方、中途採用については、ハローワークや転職情報サイトなどの求人媒体を使って募集をかけているが、新卒同様、介護職の採用の難易度は上がっている。そのような状況下、滋賀の縁創造実践センターからの依頼で、「福祉の仕事職場見学バスツアー」を実施することとなり、結果、多くの外国人の採用に繋がった。多様な人材の介護分野への参入促進を目的としたもので、ブラジル人、ペルー人、中国人、スリランカ人など約 20 名が参加。施設内の見学、施設での仕事の内容ならびに仕事のやりがいについての説明や、仕事・施設についての質疑応答を行った。人材不足が深刻化する中、外国人労働者は貴重な戦力である。外国人労働者の定着率を高めるために、EPA 介護福祉士候補生と同様、マナー研修や日本語講師の用意などサポート体制を整えている。常勤職員の異動については、年度途中の退職者は 22 名(定年以降退職 2 名)、新卒採用者は 9 名、中途採用者は 3 名、非常勤から常勤への登用は 3 名、常勤から非常勤への変更は 1 名となり、年度当初の職員数 215 名に対し、年度末職員数は、207 名となっている。年度末における非常勤職員を含めた総職員数は、338 名と前年度末比 12 名と大幅に減少した。

介護業界では人手不足によるサービス低下や労働環境の悪化による離職率の上昇、経営状態の悪化が危惧されている。良質な人材確保は難しく、採用率の減少理由としてあげられるのは、同業他社との競争や他業種と比べ労働条件が良くないことなどである。前述のとおり、少子高齢化による労働人口の減少も人材確保の難しさに影響していると考えられる。さらに労働条件や労働環境の改善をしたくても財源の問題もある。しかし、それらの問題もあるが、職員とのコミュニケーション

や職場環境の問題による離職率の抑制も介護業界の課題として挙げられる。安定した法人経営や成長を考えたとき、人材の確保は業種や規模の大小を問わず重要な課題である。新規の採用も重要であるが、離職率が高いままであれば企業イメージの悪化を招き、人材確保が困難になる。辞めさせないのもリクルートであると考えている。離職率については、厚生労働省の令和5年就労条件総合調査結果(令和4年・令和3年会計年度)によると、法人全体で全産業および医療・福祉の平均値よりは低い結果となっているが、令和3年度が6.5%、令和4年度が9.4%、令和5年度が10.3%と残念ながら年々増加傾向にある。前述の不祥事件もその要因のひとつになっているのかもしれないが、特に石部ケアセンターで大量に退職者が出てしまった。上司への不満の声が溢れ、1人辞め、2人辞め、新人から中堅職員が芋づる式に辞めていき、残された職員の負担は増え、退職の悪循環はとどまることを知らない。こうなってしまうと手の施しようもない。人員計画を練り直して、再起を図るほかない。組織は生き物である。法人本部も職員の欠員の穴埋めに新人や中途採用、クレーム処理と手一杯となり疲弊する。運よく新人や中途採用が出来たとしても新人教育ですらに疲弊、その新人もこのような職場環境では定着しない。そのために他事業所の協力も得て、令和5年9月に大幅な入替えの人事異動を行った。これまで、外部講師を招き、最終的に離職防止対策に繋がるあらゆる研修を行い、自己申告制度により職員の意向確認を行ってきた。介護の現場は多くの人と関わることでやりがいを感じられる反面、人間関係によるストレスを感じることも多い業界といえる。職員の悩みは多岐にわたるが、採用が難しい中、モチベーションを保つことで定着率を上げることは人材不足を解消する重要なポイントとなる。スタッフに長く働いてもらうためにも、コミュニケーションをこまめにとり、職員同士が相談しやすい環境を作らなければならない。また、一人ひとりの負担が下がるような労働環境を整備することで、離職率の改善に繋がる。介護職員は要介護者への介護業務だけでなく、日々の日報や管理の書類を作成することなどがある。多くの介護施設ではこれを手書きやエクセルなどで対応しており、作業の負担となっているケースがある。これらの作業をペーパーレス化・IT サービスを導入することで、負担軽減による労働環境の改善だけでなく、作業に費やしていた時間を介護サービスにあてることができ、施設利用者の満足度の向上も期待できる。具体的な手法として、介護記録を紙ベースからシステム化したことや、タブレットの導入による作業時間の低減、見守りシステム(眠りスキャン)やインカムなどの IoT 機器の導入を進めている。特に見守りシステム(眠りスキャン)は、夜間見回りを大幅に削減しつつ重大事故の発生を抑えたうえで、入居者ごとの行動や健康状態を数値化できることもあり、補助金を活用して順次設置している。さらに、介護老人福祉施設もみじについて、ネットワークの強化、改修工事も行った。今後も人材流出の問題点をチェックし、法人にとって効果的な離職防止対策を講じ、職員にとってより働きやすい環境づくりを協議しながら取り組んでいきたいと考えている。

研修・教育プログラムの充実にも継続的に取り組み、研修委員会と連携し、知識・技術などの専門性の向上とマネジメント能力、コミュニケーション能力や豊かな感性を養う人間力の向上などを目的に外部講師を交えて年間研修計画を作成している。新しい取り組みとしては、令和5年度から新たに入職2年目を対象とした研修を始めた。これまで入職1年目と3年目のタイミングで研修を行ってきたが、福祉未経験者が多いこともあり、新入職員の成長を段階的に促進するために1年目から3年目までの期間にわたり継続的な教育を提供する。後輩職員ができたことによる孤独感や、

成長の停滞など様々な課題に直面しがちな 2 年目職員。これまでの業務経験と学びの棚卸を行い、介護に対する思いの確認やケアプラン作成を通じて介護過程の再教育をメインに研修を行い、現場での実践に活かしてもらうことを目的に研修を組み立てた。さらに利用率・入居率を上げるためにケアマネや相談員を対象に「営業力」を身に付ける研修に取り組む予定であったが、次年度に繰り越すこととなった。そして、マナーリーダー養成研修における活動の一環として、法人職員の接遇マナー向上に対する意識づけを目的に、令和 5 年度は「気持ちの良いあいさつ」をテーマに、①挨拶強化月間の設定、②実施前後のアンケート、③ポスターの掲示、④館内放送の制作などの活動をメンバーが積極的に行ってくれた。引き続き、現場で中心となって進めていける人材の育成と共に事業所ごとの垣根を超え、サービス向上委員会と協働して、法人全体の接遇マナー力を高め、法人全体のレベルの一定化を図っていききたい。恒例のリスクマネジメントをテーマとした法人顧問弁護士による研修は今年度も中止したが、前述の不祥事件を受け、コンプライアンス研修を実施していただいた。今回の研修で法人として求めるコンプライアンスを明示することができたが、マナーと同じで継続的に研修を行うことが大切である。このようなことが二度と起こらないように、法人一体となってコンプライアンスに取り組むことが、信頼回復への第一歩であると考え。さらに、コンプライアンス相談員を刷新し、任命された職員を対象にコンプライアンス違反が起こらない職場づくりの推進とハラスメントなどの相談があった場合の対応についての研修を実施した。加えて、コンプライアンスホットラインの専用回線を設置し、改めてコンプライアンス相談員とコンプライアンスホットライン(相談窓口)の周知を行った。

また、企業人権問題に対しての法人内研修については、令和 5 年度は神戸市が作成した映像教材「介護従事者研修用映像『よりよい介護を目指して』」を使用して、現場に従事する職員が、業務を遂行する上で必要な知識と技術を修得し、事業所全体のケアの質の向上を図り、高齢者虐待防止に繋げることを目的に実施した。高齢者虐待は高齢者に関わるすべての人々にとって重要なことなので、直接介護サービスを提供しない者(施設長、事務職員等)や、介護職以外で直接高齢者に関わる他の職種も含め全職員を対象とした。新型コロナウイルス感染症の流行によりご家族の面会やボランティアの受入れもままならず、第三者の目や気づきが入りにくい時期だからこそ、虐待や不適切ケアは大丈夫か、少し立ち止まって考えてみる機会にしてほしいと考えた。新型コロナウイルス感染症の影響で、一か所に集まって行う集合研修を実施することがまだ難しい状況であるので、事業所内での動画(YouTube)視聴とし、視聴するだけでなく、グループでディスカッションすることを通して自分たちのケアを振り返り、これからの介護力の向上につなげることを期待している。

さらに、管理職の労務管理能力を高めることを目的に、毎月の施設長会議でテーマを決めて学ぶ時間を設けるなど、ワークライフバランスに配慮した環境整備に努めた。令和 5 年度の月平均所定外労働時間は 3.9 時間、平均年休取得率は 88.5%、厚生労働省の令和 5 年就労条件総合調査結果(令和 4 年・令和 3 年会計年度)での全産業および医療・福祉の平均値より高い結果である。時間外および有給休暇の徹底した管理を続けている結果だと確信している。

経営に関しては、第五次中期経営計画の「人材の確保・育成」、「安定経営に向けての事業展開」、「安定経営に向けての経営マネジメント」の課題と方向性に基づいて、主要施策の項目を掲げ、効率的、効果的に遂行できるよう、これまで同様、各所管の責任において実行していく項目と、

委員会等に委ねる項目、PT(プロジェクトチーム)方式で進める項目など、区分けして取り組んでいる。特に経営対策委員会を中心に具体的推進策(工程表)に基づき、分析、検証を進めており、令和 5 年度も引き続き法人財務分析および他法人比較を行うなどに取り組んだ。また、以前より行っている補正後人件費率表を活用したチェックによる事業所の経営状況の共有に加え、令和 5 年度より事業計画の半期進捗状況表の取りまとめによる進捗管理を実施したことにより早期に対策がとれる体制を強化することができた。さらに前年に引き続き予算作成等の説明会やインボイス制度の説明会を行い管理職等の収益管理のスキルアップにつなげた。そして、事業継続のための大規模修繕について、約 10 年間で約 14 億円を予定しており、令和 5 年度には石部ケアセンターの給湯システム、石部ケアハウスの LP ガスバルク更新、グループホームみなくちの非常用発電機設置工事、介護老人福祉施設もみじの LED 照明への交換に着手した。加えて、石部ケアセンター、介護老人福祉施設もみじの多床室の個室化改修、石部ケアハウス、石部ケアセンター、グループホームみなくちの家族面会ブースの整備を全額補助金の利用で実施した。なお、当初予定していた特別養護老人ホームあぼしの高圧受電設備、介護老人福祉施設もみじのナースコール改修については、令和 6 年に繰り越すこととなった。また、令和 5 年 10 月から導入されたインボイス制度については、システムの対応や事業所との連携、実務のサポートを密に行い、経理業務の円滑な移行ができた。

その他については、残念ながら令和 5 年度も例年開催している祭りは中止とした。自主防犯組織「八起会安心パトロール隊(青パト)」は継続しており、徘徊不明高齢者の早期発見保護活動に重きを置き、有効な活動を推進し、児童・生徒に対する痴漢予防の活動にも努めている。また、「介護職員処遇改善加算」、「介護職員等特定処遇改善加算」、「介護職員等ベースアップ等支援加算」すべて無事申請することができた。さらに、法的に義務化された地震等自然災害や感染症に対する BCP(事業継続計画)を策定し、安全で持続的なサービス提供を確保できるよう全職員に周知徹底を図った。

障がい者雇用については、法人で雇用すべき人数 6 名に対して、令和 6 年 3 月末時点で 9 名おり、法定雇用率(2.3%)を上回る雇用を維持することができている。人材が不足しがちな分野において、障がい者を雇用することは人材の確保にも繋がる。適切なフォローや条件の合致を重視し、個々の障がい者の能力を最大限に生かしたい。

法人にとっての大きな課題は、経営管理者の年齢が総じて高く、これら世代交代の時期が間近だということである。次代を担う経営管理者の育成が大きなカギを握る。マネジメント経験を積む場を意図的に設けて、チャレンジできるよう計画的に引き続き進めたい。そして、新たな法規制の導入や市場の変化に柔軟に対応し、より良い未来へと舵を切っていきたい。

経営委員会 総括

新型コロナウイルス感染症の流行により感染対策の重要性が再認識され、令和 3 年度介護報酬改定において、感染症対策強化のための取組が義務づけられた。それに伴い、感染対策委員会を経営委員会のひとつに含めることとし、前年度に引き続き、経営委員会において以下の取り組みを行った。

経営対策委員会
業績向上委員会
サービス向上委員会
研修委員会



経営対策委員会
業績向上委員会
サービス向上委員会
研修委員会
感染対策委員会

➤ 経営対策委員会

今年度は第 5 次中期経営計画の最終年度として、①人材確保・育成、②安定経営に向けての事業展開、③安定経営に向けての経営マネジメントを 3 本柱として、優先的な課題に対して活動を行った。

《①人材確保・育成について》

技術向上に関する指導方針の基礎資料とするための看護・介護職の技術的な評価基準の作成

《②安定経営に向けての事業展開について》

(法人内セキュリティの強化)

- ・法人施設の LAN および Wi-Fi 環境の整備
- ・請求システムの電子化推進に関するアンケートの実施

(各事業所の法人内での位置付け方針検討)

- ・業績向上を図るための対策
 - ①「デイサービスセンターこんぜの郷」および「デイサービスセンターあさひがおか」について、現行の認知症対応型から地域密着型への事業転換を地域・行政へ交渉
 - ②「こんぜデイサービスセンター」の通常型からリハビリ特化型への転換による差別化実施

(総合戦略)

- ・業績向上を図るための対策
 - 「石部ケアセンター」と「石部ケアハウス」が連携を図り、超強化型算定の取得を実施
- ・収益向上および人材の有効活用を図るための対策
 - 「みやのもりデイサービスセンターを一時休止し、リソースを収益性の高い事業所へ再配置(令和 6 年 7 月実施を予定)
- ・介護保険制度のデータ活用を図るための対策(LIFE)
 - 委員会より運用方法の周知を行い、対象事業所の加算取得のサポートを実施
- ・効率のよい運営を目指すための対策
 - 専門職間の連携を図り、スケールメリットを生かした運営指針を策定
- ・補助金の活用による対策
 - ①入所施設の個室化による入居者プライバシー保護と感染対策の強化
 - ②眠りスキャン及び、インカムの導入



➤ 業績向上委員会

今年度は法人内の各部署間の連携と情報共有に加え、地域との繋がりと法人PRの強化に取り組んだ。居宅部門と通所部門、入居部門に委員会のメンバーを分担し、それぞれの部門で相談員、ケアマネジャーを中心に定期的に会議を開催し、利用率向上に向け取り組みを行った。

《居宅部門》

- ・地域のサロンやイベント、会議等に参加し、地域の現状把握と課題等の情報を収集し、当法人の事業所へ情報提供を行うとともに法人の PR に努めた。
- ・地域からの依頼による介護保険に関する講習会を開催。
- ・次年度についても、継続的に地域のサロン等に参加をしていく。また、今年度の活動については、業績向上委員会のメンバーが中心となり進めてきたが、次年度以降、居宅職員一人ひとりが役割をもって活動できる仕組みを構築していきたい。

《通所部門》

- ・情報の共有と業務改善を目的に通所間の合同会議を月 1 回開催し、居宅からの情報や意見を確認しながら日々の運営の中で対応できることを実施。
- ・前年度に作成したパンフレットを更新し、居宅事業所へ配布。
- ・利用相談時に活用するための利用回数に応じた一月当たりの試算表を作成。
- ・経営対策委員会からの方針を受け、「石部デイサービスセンター」は 365 日営業、「みやのもりデイサービスセンター」は重度利用対応、「こんぜデイサービスセンター」はリハビリ特化型へ移行、それぞれの実施に向け着手するも、「こんぜデイサービスセンター」のリハビリ特化の一部スタート以外は、人員不足の影響などにより実施に至らなかった。
- ・次年度については、今年度同様に定期的に合同会議を開催し、情報の共有を行う。また、各事業所の応援体制の構築と業務の改善、統一化を進めていき、石部デイサービスセンターの 365 日営業を実施する。

《入居部門》

- ・待機者の整理と次期入所者の調整等を中心に連携・情報交換を行い、空床期間の削減に取り組んだ。また、入所者の選定については、各施設共に介護度や認知症度の兼ね合いがあることから、常に調整を図り加算維持に努めた。
- ・利用者の取りこぼしがないように、各施設の相談員がそれぞれの空き状況を把握しておけるよう、ほのぼの活用方法の見直しと利用相談者の情報を共有するツールを作成。
- ・石部ケアハウスとの連携についても、常に入居者の情報共有を行い、老健と特養の利用を進めていけるよう調整を行った。また、利用にあたっての担当ケアマネと石部ケアハウス職員との連携方法の取り決めを行った。

《その他》

- ・通所事業所と石部ケアハウスの利用者獲得を目的に令和 6 年度の湖南省サービスガイドブックに法人広報を掲載。

次年度も引き続き、各部門での連携を図りながら取り組みを進め、業績向上に繋げていきたい。

また、外部関係機関等への働きかけの幅を広げていき業績向上につなげていく。

➤ サービス向上委員会

委員会の目的確認および検討課題を選定することから活動を開始。

今年度は、職員のマナーの向上、地域貢献(地域とのつながり)をどう進めていくかについての課題を挙げ、必要度の高い課題から協議を行い、以下の活動を行った。

・地域 PR(交流)

- ①地域のまちづくりセンターを訪問。サロンに参加し、依頼を受け講演会を実施。
- ②石部中学校の生徒会と共に丸山地域の清掃活動を月1回の頻度で実施。交流を深めることができた。

・職員のマナー(教育)

ご利用者とご家族向けのアンケートを事業所ごとに実施。集計結果から次年度はその改善に努めたい。

➤ 研修委員会

今年度も新入職員と中途職員を対象に介護技術の基礎研修を年間通じて行い、介護基礎の部分では京都医療福祉専門学校から講師を派遣していただき、より専門的な研修を実施することができた。また、介護専門職として入職から5年目までのキャリアアップについて検討し、2年目にあたる職員には新たに実践的な介護過程を学ぶ研修を実施することができた。

今後は、介護の評価基準をもとに指導者が正しい介護技術習得や OJT を通じた人材育成が法人全体で実施できるよう、職員の研修体制を構築していき、現在課題となっている指導者の育成に注力していく。

一方、新たな研修が増えていく中で、施設運営上での必須研修が増えている状況もあり、各研修内容や開催頻度については、今後も精査していく必要がある。同じ内容の研修を各事業所で考え実施している状況もあるため、事業所間での研修を共有する手段を構築することや IT を使用したオンデマンド研修等での効率化も視野に入れながら、研修での業務負担を軽減できるようにしていきたい。

➤ 感染症対策委員会

「新型コロナウイルス感染症」に対応するため、令和 2 年 8 月より定期的な会議を実施。今後も高まる感染症による被害を最小限にするため、令和 5 年度からは正式に法人の委員会として活動を開始。

令和 5 年 5 月には新型コロナウイルス感染症が 5 類に指定され、行政による様々な要請・関与が個人の選択を尊重する自主的な対応に移行。

「高齢者介護」という業態から一般の開放モードとは温度差があるため、どの程度の感染対策を続けるべきか、委員会で慎重に検討を重ね、高齢者の感染リスクを最小限に抑えつつ、安全な環境を提供することを目指した。

(抗原検査キットの選定)

・法人として推奨する検査キットの選定を行い、検査の精度向上を図った。

(発熱時の休業対応と書面の統一)

- ・発熱時の 24 時間ルールを廃止し、曖昧であったガイドラインを明確化した。
- ・コロナウイルスとインフルエンザの休業対応の文言を統一し、一貫性を図った。

(感染予防着の使用指針の明確化)

・感染予防着の使用用途とルールを厳格に定めた。

(面会制限の緩和と感染対策)

・冬期の面会制限を撤廃し、各施設が感染状況に基づいて面会可否を判断する体制を整えた。

(日本感染対策協会認定施設としての登録)

・入所施設について、ご利用者に安心して利用いただける環境を提供するため、「日本感染対策協会」が定める基準をクリアし、認定施設としての登録を受けた。

(BCP(事業継続計画)の作成と更新)

・新型コロナウイルスの感染症分類変更に伴い、BCP の見直しと更新を行い、将来的な感染症にも対応可能な内容への変更を加えた。

理事会開催状況

令和 5年 5月 24日(水)

1. 令和4年度事業報告及び決算報告(案)について
2. 新理事候補者・新監事候補者の選定について
3. 評議員会の開催について

令和 5年 6月 17日(土)

1. 理事長の選任について
2. 金融機関取引について

令和 5年 7月 25日(月)

1. 評議員会の開催について

令和 5年 9月 22日(金)

1. 会計報告について
 2. 金融機関取引について
 3. 石部ケアセンター・もみじにおける補助金を活用した「多床室の個室化改修事業」について
- その他報告事項

令和 5年 10月 11日(水)

1. 当法人元職員による不祥事件に関する役員等の処分について
2. 評議員会の開催について

令和 6年 1月 9日(火)

1. 会計報告について
2. 金融機関取引について
3. 太陽光パネルの設置について

令和 6年 2月 21日(水)

1. みやのもりデイサービスセンターの休止について
2. もみじ浴室温水器更新工事の入札業者の選定について

令和 6年 3月 29日(水)

1. 会計報告について
2. 令和5年度補正予算(案)について
3. 令和6年度事業計画及び予算(案)について
4. 令和5年度指導監査結果等の報告について

5. デイサービスセンターこんぜの郷の事業転換について

6. 金融機関取引について

7. 経理規程の変更について

8. 役員等賠償責任保険の契約について

評議員会開催状況

令和 5年 6月 17日(土)

1. 令和4年度事業報告及び決算報告(案)について
2. 理事の選任について
3. 監事の選任について

令和 5年 8月 5日(土)

1. 当法人元職員による不祥事件について

令和 5年 11月 18日(土)

1. 当法人元職員による不祥事件に関する役員等の処分および今後の対策について

監事監査の実施状況

令和 5年 5月 24日(水)

山元監事・仁科監事により実施

石部ケアハウス
石部デイサービスセンター
八起会居宅介護支援相談所
(令和 5 年度 総 括)

要介護・要支援状態区分該当者 29 名 (前年度該当者 34 名)

- ・要支援 1・2 …3 名
- ・要介護 1 …16 名
- ・要介護 2 … 6 名
- ・要介護 3 … 3 名
- ・要介護 4 … 1 名
- ・要介護 5 … 0 名

1. 総括

(1) 石部ケアハウス

- ・令和 5 年度は、利用率 97%(平均入居者 48.5 名)を目標としてスタートした。しかしながら年間退居者 12 名が発生し、8 名の新規入居者を獲得したものの、入居延べ人数は満床 18,300 名(定員 50 名×366 日)に対し 16,218 名(令和 4 年度 17,444 名)となり、年間利用率 88.45%と前年対比 7.13%の減少となった。
- ・入退居の状況は、入居者 8 名、退居者 12 名と前年度に引き続き入居・退居ともに多い状況であった。年間退居者 12 名の退居先は、老健 2 名・特養 2 名、他施設入居 1 名、入院や死亡計 7 名と、特に入院後に病院での死亡が一番多い状況であった。
- ・若年者(70 歳)の新規入居があったため、平均年齢としては前年度と比べて差異は見られない。高齢化に伴い身体的に自立困難な入居者が増加しており、同時に退居者が今後も順次発生することが想定される。一方で入居申込や施設見学に至る件数は減少してはいないものの、自立度の低さや身元引受人、代理人の選定が困難なことなどから入居に至らないケースも増加している。
- ・前年度に引き続き、入居者の会である「ふるさと会」をもとに、入居者の自己選択、決定を尊重し、また、事故・苦情等に対して早急な対応と、サポートをすることができた。
- ・交流事業では、三雲養護学校石部高校分校の生徒が作ったパンの販売を毎月実施することができた。また、多機能型就労支援 A 型・B 型事業所 NPO 法人「エルディ」による手作りクッキーの販売についても毎月実施できた。
- ・入居者によるボランティア活動として、石部デイサービスセンター利用者の見守りサポート、特養あぼしや石部ケアセンターのトイレで使用する感染防止用新聞紙のセット作業を行った。
- ・設備面では、入居者居室の水道栓・温水器の更新についても退居時に古いものから取替し改善に努めた。
- ・利用率の低迷に伴いサービス活動収益は前年対比 5,687 千円減となった。人件費は職員 1 名退職に伴う引継ぎ期間が 3 ヶ月間あったことや非常勤職員が 6 ヶ月間配置されていたことにより前年対比 2,885 千円増となり、修繕費は経年劣化に伴う設備機器の修繕が目立ち 2,357 千円増となった。
- ・年度末現在

入居者内訳 男性 11 名、女性 31 名、計 42 名
平均年齢 男性 83.7 歳、女性 86.7 歳、全体 85.2 歳
男性(最年少 72 歳、最年長 98 歳) 女性(最年少 70 歳、最年長 97 歳)

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	81,213	29,186	36,846	18,352	▲3,171
4 年度	86,900	26,301	37,588	16,981	6,030
3 年度	87,770	27,102	40,233	16,450	3,985

(2) 石部デイサービスセンター

- ・令和 5 年度の利用率については、前年度を上回ったものの、目標利用率(71.4%)には至らず、65.2%(R4 年度利用率=58.34%)となった。
- ・新規利用者については、当法人居宅介護支援事業所からの紹介が 19 名、外部居宅介護支援事業所からの紹介は 11 名であった。
- ・利用登録者の増強を図るため、要支援認定の利用者についても積極的に受入れを実施し、令和 5 年度については 4 名の利用者が区分変更により要介護の判定となり、収益拡大に寄与した。
- ・サービス活動収益は、利用率アップ及び利用者平均要介護度が上がったこともあり、前年対比で 8,790 千円増加した。一方で、業務効率化、経費削減意識を強化したことから人件費、物件費の削減についても結果として表れており、サービス活動増減差額は前年対比 10,952 千円プラスとなった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	66,024	78,320	14,255	4,841	▲31,391
4 年度	57,234	79,748	14,902	4,867	▲42,343
3 年度	58,892	67,335	14,542	4,719	▲27,704

(3) 八起会居宅介護支援相談所

- ・令和 5 年度は、新規利用者の受け入れが 59 名(令和 4 年度 51 名)、前八起会栗東居宅介護支援事業所長退職に伴う利用者移行受け入れが 16 名、死亡・入所等された方が 57 名(令和 4 年度 60 名)、前八起会居宅介護支援相談所長異動に伴う八起会栗東居宅介護支援事業所

への利用者移行が 30 名であった。

- ・年間延べ利用者数は 2,106 名で、令和 4 年度に比べ 114 名増。その内訳は要介護延べ人数が 2,106 名(令和 4 年度 2,065 名)、要支援は 583 名(令和 4 年度 510 名)と前年対比で要介護者 41 名増、要支援者は 73 名増となり、比率は、要介護者 78.3%(令和 4 年度 80.2%)、要支援者 21.7%(同 19.8%)で要介護者の割合が増加している。また月平均では、要介護者 175.5 名(令和 4 年度 175.5 名)、要支援者 48.5 名(令和 4 年度 42.5 名)となった。
- ・介護支援専門員の一人当たりの月間利用者件数は 37.8 件(令和 4 年度 42.9 件)であった。
- ・前年度作成した BCP(事業継続計画)マニュアルに基づき、研修と訓練を行った。
- ・地域貢献活動として生活支援コーディネーターや民生委員、市議会議員と意見交換の機会を設け、地域の社会資源の現状を把握、課題を分析しながら、今後、地域に必要な社会資源の提案や、地域の高齢者が住み慣れたまちで生活していける仕組みづくりに携わった。
- ・地域の行事(愛宕まつり、石部ふれあい祭り等)への参加、地域の子供たちから高齢者までが交流できる居場所づくりのイベントを開催した。
- ・地域からの要請を受け、介護保険についての出前講座を行い、地域住民に高齢者福祉の制度について啓発活動を行った。
- ・湖南市コア会議に担当ケースを提出し、各関係機関の担当者と話し合うことで、利用者の権利擁護を図るとともに、地域で安心して生活ができるように連携を行った。
- ・職員の資質向上では、他法人の事業所と合同事例検討会を実施した。また、地域包括支援センターが実施する事例検討会にも積極的に事例を提出した。さらに甲賀・湖南ケアマネ協議会等の研修会の参加や介護支援専門員としてのスキルアップを目的とした議題や利用者に関する情報の共有の勉強会を週 1 回開催した。
- ・24 時間連絡体制により、独居世帯、高齢者世帯や介護力が不十分な世帯、また虐待、経済的困窮世帯などの困難な介護ケースも受け入れ、各関係機関との連携を密にして、地域の方々や行政に信頼される事業所としての役割を果たした。
- ・働き方改革として、7 日間の連続休暇(年次有給休暇 5 日間+公休 2 日間)を職員全員取得するとともに、年間の有給休暇取得率、事業所全体で 85.3%(年間付与日対比)の実績を果たした。さらに業務効率化を図った結果、職員一人当たりの時間外勤務を月平均 4.40 時間に抑えることができた。
- ・サービス活動収益は、年間延べ利用者数が 114 名増加したことにより前年対比 678 千円増の 37,691 千円となった。職員増員及び人事異動により人件費が前年対比 3,828 千円増となり、サービス活動増減差額は前年対比 3,247 千円減となった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	37,691	26,057	2,358	622	8,654
4 年度	37,013	22,229	2,073	838	11,901
3 年度	38,204	23,522	2,451	486	11,745

2. 年間延べ利用者数(デイサービス・居宅介護支援 上段:介護 下段:予防)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
ケアハウス	1,326	1,382	1,351	1,407	1,396	1,380	1,395	1,342	1,370	1,314	1,222	1,333	16,218
デイサービス	535	595	600	606	615	621	603	567	567	508	548	541	6,906
	17	13	20	25	22	34	40	30	22	22	20	16	281
居宅介護支援	161	164	167	186	183	187	191	191	186	166	164	162	2,108
	50	47	52	53	55	52	50	49	49	42	43	39	581

3. 職種別職員数 (令和 6 年 3 月 31 日現在)

形態	職種	施設長	事務長	相談員	栄養士	介護職員		看護師		介護支援専門員		その他
						常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
石部ケアハウス		1 (1)		1	1	2						
石部デイサービス		1 (1)		2 (2)		6 (2)	4	1	1			2
居宅介護支援										4	1	
計		2 (2)		3 (2)	1	8 (2)	4	1	1	4	1	2

():内兼務

4. デイサービス登録者数 (令和 6 年 3 月 31 日現在)

要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
1	2	1	2	3	4	5	
1	2	16	20	10	12	5	66
							男性 25 女性 41

(男性 1 名別途保留中)

5. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

令和5年度 行事等実施報告書(ケアハウス)

月	項目		行事				その他			
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
4月	3	クッキー販売	6	お花見弁当	9	映画鑑賞会	11	カラオケを楽しむ会	4	県議会議員選挙
	12	喫茶	14	お誕生日会	17	編み物教室	23	映画鑑賞会	19	栗東市議会議員選挙
5月	8	クッキー販売	12	お誕生日会	14	母の日	14	映画鑑賞会		
	15	編み物教室	16	カラオケを楽しむ会	17	喫茶	24	さつま芋の苗植え		
6月	28	映画鑑賞会								
	1	手作りパン販売	4	映画鑑賞会	5	クッキー販売	13	カラオケを楽しむ会		
7月	18	映画鑑賞会	18	父の日	21	喫茶	23	編み物教室		
	29	手作りパン販売								
8月	3	クッキー販売	7	七夕	7	お誕生日会	9	映画鑑賞会		
	10	編み物教室	11	カラオケを楽しむ会	19	喫茶	23	映画鑑賞会		
9月	4	お誕生日会	6	映画鑑賞会	8	カラオケを楽しむ会	16	喫茶		
	17	手作りパン販売	20	映画鑑賞会	24	骨密度測定会	28	編み物教室		
10月	3	映画鑑賞会	4	クッキー販売	8	お誕生日会	12	カラオケを楽しむ会	26	守山市議会議員選挙
	13	喫茶	17	映画鑑賞会	18	敬老祝賀会	21	手作りパン販売		
11月	25	編み物教室								
	1	映画鑑賞会	2	クッキー販売	13	お誕生日会	15	映画鑑賞会		
12月	16	編み物教室	17	カラオケを楽しむ会	18	喫茶	19	手作りパン販売		
	27	さつま芋掘り	29	全館害虫駆除	31	ワクチン接種				
1月	3	焼いも	5	映画鑑賞会	6	クッキー販売	9	手作りパン販売		
	10	お誕生日会	14	カラオケを楽しむ会	15	喫茶	19	映画鑑賞会		
2月	20	編み物教室	29	インフル予防接種						
	4	クッキー販売	6	お花の販売	7	手作りパン販売	8	お誕生日会		
3月	10	映画鑑賞会	12	カラオケを楽しむ会	13	喫茶	18	編み物教室		
	22	ゆず風呂	24	映画鑑賞会	25	クリスマス会				
4月	1	年賀祝賀会	1	記念撮影	2	書初め	7	映画鑑賞会		
	15	小正月(甘酒とぜんざい)	17	喫茶	18	手作りパン販売	19	お誕生日会		
5月	21	映画鑑賞会	23	カラオケを楽しむ会						
	4	雛人形の飾りつけ	8	手作りパン販売	11	映画鑑賞会	14	喫茶		
6月	16	お誕生日会	19	編み物教室	20	カラオケを楽しむ会	25	映画鑑賞会		
	1	桃の節句茶話会	3	映画鑑賞会	4	クッキー販売	12	手作りパン販売		
7月	15	お誕生日会	17	映画鑑賞会	20	喫茶	27	消防訓練		

・お針の会 (第2、第4 日曜日10:30～)
 ・書に親しむ会(第1、第3 日曜日10:30～)

令和5年度 行事等実施報告書(石部デイサービスセンター)

月	項目		行事				その他			
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
4月	12	出前ランチ	13	ティーパーティー	14	手作りおやつ	20	行事食	7	誕生日会
	24	ティーパーティー	25	手作りおやつ					12	誕生日会
5月	3	手作りおやつ	11	ティーパーティー	20	手作りおやつ	22	ティーパーティー	25	誕生日会
	29	出前ランチ							5	誕生日会
6月	10	ティーパーティー	16	行事食	20	手作りおやつ	26	手作りおやつ	10	誕生日会
	29	ティーパーティー							30	誕生日会
7月	6	手作りおやつ	12	ティーパーティー	17	手作りおやつ	18	ティーパーティー	7	誕生日会
									13	誕生日会
8月	17	手作りおやつ	19	ティーパーティー	19	手作りおやつ	22	行事食	22	誕生日会
	28	ティーパーティー							8	誕生日会
9月	5	手作りおやつ	5	手作りおやつ	28	手作りおやつ	28	ティーパーティー	14	誕生日会
									28	誕生日会
10月	3	手作りおやつ	11	ティーパーティー	19	手作りおやつ	23	出前ランチ	10	誕生日会
	27	ティーパーティー							16	誕生日会
11月	7	ティーパーティー	13	手作りおやつ	18	出前ランチ	23	ティーパーティー	22	誕生日会
	29	手作りおやつ							7	誕生日会
12月	8	ティーパーティー	15	手作りおやつ	16	手作りおやつ	19	ティーパーティー	18	誕生日会
	20	手作りおやつ							21	誕生日会
1月	9	出前ランチ	11	手作りおやつ	12	新年会	15	手作りおやつ	4	誕生日会
	24	手作りおやつ							24	誕生日会
2月	8	ティーパーティー	12	手作りおやつ	20	ティーパーティー	21	出前ランチ	5	誕生日会
									10	誕生日会
3月	12	ティーパーティー	15	手作りおやつ	26	手作りおやつ			20	誕生日会
									8	誕生日会
								13	誕生日会	
								25	誕生日会	

介護老人保健施設 石部ケアセンター

(入所・ショートステイ・デイケア)

(令和 5 年度 総 括)

1. 総括

(1) 石部ケアセンター

令和5年度は、運営の安定化を図る為に、前年度より継続していた報酬区分「加算型」から「強化型」に移行する事を目標とし運営を開始した。5月に新型コロナウイルスの感染症の分類が緩和されると同時に感染対策を継続しつつ、新規利用者の受入れ、在宅復帰支援の増加に力を注ぎ、その結果、予定より2カ月遅れはしたものの当初計画していた「強化型」より上位区分の「超強化型」への移行が果たせた。

一方で介護職や看護師の退職後における人員確保が計画的に実施できず、1月以降は利用率が減少する状況下に至ったが、業務の効率化や職員間の連携もでき業務遂行することができた。また地域への貢献事業においてはコロナ感染の余波もあり講師派遣が中止になる等で自粛を余儀なくされたが、可能な範囲内で実績を残すことができた。

業務面では、退所者(在宅復帰含む)は144名(令和4年度127名)、入所者は132名(令和4年度119名)を受け入れ、入退所率は増加した結果となったが、最終利用率は年間で86.54%(令和4年度89.90%)と前年対比3.36%の減となった。

利用率は当初の目標数値に達することができなかったが、居宅介護支援事業所への営業の効果もあり、短期療養介護利用者の新規獲得に成果がみられ、来期に希望が持てる実績となった。

介護に関する事故等については、年間198件(令和4年227件)前年対比▲29件となった。事故原因には様々な要素が絡んでいるが、介護事故を防ぐ為には、職員の介護技術や事故に対する予見能力をアップさせる必要があり、今後も研修、啓発、指導を継続していきたい。また、苦情申し出の件数は0件であった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5年度	349,392	247,885	81,389	27,412	▲7,294
4年度	331,528	268,820	91,499	25,678	▲54,469
3年度	335,429	267,402	89,122	24,769	▲45,864

(2) 石部デイケア

令和5年度は、休みによる利用率低下防止の取り組みとして、琵琶湖1周スタンプラリー(1周50スタンプ)を行った。上期はゴール達成者が少なく、目に見えた効果が表れなかった。また、4~6月に入院する利用者が急増したことや、ショートステイの利用、石部ケアセンターへの入所などが重なったことから、前年度より利用率が低下した。下期はゴール達成者が増え、利用者からも良い

反応があり、前年度を上回る利用率となった。ただ、年間を通しては、上期の延べ人数の低下が影響し、前年度を下回る結果となった。

延べ人数は上期3,194名、内予防672名(令和4年度3,526名、内予防647名)、下期3,239名、内予防633名(令和4年度3,109名、内予防648名)となり、年間では6,433名、内予防1,305名(令和4年度6,635名、内予防1,295名)で前年度より202名減少した。

しかし、居宅介護支援事業所との連携強化や新規紹介の営業などを行った結果、居宅介護支援事業所からの新規紹介が法人内居宅介護支援事業所も含め、令和5年度は31件(令和4年度は19件)あり、前年度より12件増加した。

令和6年3月31日現在の登録利用者数も、要支援23名(令和4年度25名)、要介護83名(令和4年度71名)、合計106名で、前年度より10名増加した。

感染対策としては、令和5年5月から、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ引き下げられたが、引き続き、パーティションの設置、利用者全員にマスクの着用と手指消毒の徹底、乗車前・到着後の体温確認、リハビリ機器の消毒、定期的な換気、利用者同士の間隔を広くとるなど、感染対策を行い、クラスターのような集団感染は起こらなかった。

リハビリテーションに関しては、前年度に引き続きADL(日常生活動作)やQOL(生活の質)に直結するように、日常生活動作関連の体操やDVD等を使っての音楽に合わせた体操などを実施した。また、利用者の自主性を高めるために、脳トレなどのプリントや手指のリハビリ器具、足につける重りなどを利用者が取りやすいところに配置。自らプリントやリハビリ機器を取りに行き、他の利用者の分も取ってあげるなど、「自主的に動くリハビリ」が定着してきた。

レクリエーションに関しては、地域ボランティアを下期より徐々に受け入れ、利用者との交流を図ることが出来た。

職員のスキル向上については、レクリエーションの企画決裁書を毎月1つ作成、提出してもらい、会議の中で発表するようにし、レクリエーションの意義や考え協力し合える職員の育成に取り組んだ。

ヒヤリハット事例は0件(令和4年度0件)、事故件数は10件(令和4年度5件)、苦情の申出は0件(令和4年度0件)であった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5年度	57,843	26,873	9,251	3,178	18,541
4年度	58,199	27,741	10,239	3,140	17,079
3年度	58,950	24,778	9,152	3,074	21,946

2. 利用者数(延べ人数)

石部ケアセンター

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期	
入所延べ数	1,925	2,019	1,976	1,929	1,928	1,885	11,662	
入所者数	8	13	9	12	11	9	62	
退所者数	13	9	12	13	11	11	69	
ショート	64	62	147	220	206	133	832	
デイケア	482	513	528	562	544	565	3,194	
(内介護予防)	105	107	112	110	120	118	672	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期	合計
入所延べ数	1,837	1,799	1,758	1,730	1,594	1,768	10,486	22,148
入所者数	13	12	12	11	13	9	70	132
退所者数	15	16	9	16	8	11	75	144
ショート	248	254	177	136	204	150	1,169	2,001
デイケア	568	554	522	493	532	570	3,239	6,433
(内介護予防)	106	116	102	94	104	111	633	1,305

3. 石部ケアセンター職種別職員数 (令和 6年3月31日現在)

職種	(医師) 施設長	事務長	副施設長	薬剤師	管理栄養士	PT OT	支援相談員	(含DC) 看護職員	(含DC) 介護職員	介護支援 専門員	事務員	その他
常勤職員	1 (1)	0	1 (1)	0	1	6	3 (1)	6	22	1	2	2
非常勤職員	0	0	0	0	0	0	0	4	14	0	0	8
委託	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1 (1)	0	1 (1)	1	1	6	3 (1)	10	36	1	2	10

() : 内兼務

職員数

* 総人数 70名

4.年間行事等実施内容

別紙のとおり

令和5年度 行事等実施報告書（石部ケアセンター）

項目 月	行事			日	その他
	2階	3階	日		
4月			ハイロカトルチャーム 行事食「押しずし」	18	電気設備点検 エレベーター点検 移動散髪
			出前ランチ「ごまや」 コロッセ	20	
			行事食「五目散らし寿司」	24	
			ティータイム 野菜苗植え 手作りふりかけ	2 3 6	
			行事食「カレー」 母の日「カーネーション作り」 モービル	11 10 13	
5月			行事食「ハンバーグ定食」 あじさいの押し絵を作ろう	15 16	電気設備点検 水質検査 移動散髪
			出前ランチ「平和堂のお弁当」 出前ランチ「えびすよし」	26 3	
			ティータイム おやつ作り「ブリガディオ」 物作り「風鈴」	8 9 12・19・26	
			行事食「冷やし担々麺」 うちわを作りましたよ	13 20	
			行事食「ぞうめん」 おやつ作り「あじさい作り＆ハンナコッタ」 縁日「かき氷、ペルーカステラ、フランクフルト」	23 28 6・18	
6月			おやつ作り「エスプイハ」 壁面制作「ひまわり」 ダイケアラランチ「うなぎ」 「すいかの日」すいか割り	8 10 13・4 27	電気設備点検 エレベーター点検 移動散髪
			ゴーヤ料理 野菜の輪切りにピーマン、パプリカ、パセリ、のり、カラメルソース焼き	3	
			かき氷 行事食「いなり定食」 スクワッシュアート	12 14 16・28 26	
			ティータイム 抹茶わらび餅 灯笼を作ろう	26 29 30	
			行事食「きのおこわ」 勾玉作り ティータイム 敬老会「お楽しみ会」 制作「ミニ壁飾り」	12 6 14 18 22	
7月			おやつ作り「缶詰2層ゼリー」 お月見「お団子を食べよう」 行事食「栗ご飯」「秋刀魚」 鬼まんじゅう作り 五平餅	25 12 11 17 24	電気設備点検 移動散髪 消防訓練 避難訓練
			行事食「おでん」 フリータイム「スゴクゲーム」 行事食「塩ちゃんこ鍋」 しめ縄作り	26 1 5 7・21	
			園芸 秋の小物作り「ミニタペストリー」 ハンズキンカップケーキ	28 30 31	
			ゴルフゲーム ガーデニング コロコロ玉送りゲーム パズルタワー	2 4 7 9	
			みんなまで通せ！綱渡り 焼き芋 フリータイム「バスケットボール」 クリスマス飾り作り	15 17 18 23	
8月			オンライン旅行 行事食「おでん」 フリータイム「スゴクゲーム」 行事食「塩ちゃんこ鍋」 しめ縄作り	24 27 1 5 7・21	電気設備点検 エレベーター点検 移動散髪
			ティータイム 出前ランチ「田楽茶屋」 ボランテニア訪問 ボテつめつめゲーム スプーンでピンポン球をパック詰め ダイケアラランチ「すき焼き」	14 16・28 18 19 23 31	
			新年会「松花堂弁当」 七草粥 稲汁	4 8 10	
			鏡開き「ぜんざい」 新聞紙でリレー 行事食「押し寿司」 おやつ作り「簡単ハンバーグおぶりケーキ」 郵分の飾り物を作ろう	12 13 23 24	
			Pokcy Game あっちいけゲーム 出前ランチ「スシロー」 フリータイム「モルック」 ボランテニア訪問	25 25 26 27 30	
9月			ボランテニア訪問 味噌つくり チョコバナナを食べよう フリータイム「ぼとぼと玉箸としゲーム」 スプーンでピンポン球をパック詰め2 ふたりdeキヤッチャー	1 8 14 15 17	電気設備点検 エレベーター点検 移動散髪
			行事食「おにぎりランチ」 出前ランチ「魚釣り」 じゃんけん大会 勝つのは誰だ！ 卵取り競争 三色団子	21 26 27 28 29	
			三色蒸しゼリー 行事食「たけのご飯」 卒業シーズン 脳トレプリントテスト りんご酢ゼリー	1 5 7・21 9	
			肉まんづくり 競馬ゲーム ホワイトデー「ベビーカステラ」 紙芝居	11 13 14 18	
			ティータイム 笑いヨガをしよう 手作りおやつ「カスタードワッフル」	20 22 30	
10月			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「餃子の皮ピザ」 手作りおやつ「カップシュートケーキ」	12 20 26	電気設備点検 消防設備点検 エレベーター点検 移動散髪
			手作りおやつ「餃子の皮ピザ」 手作りおやつ「カップシュートケーキ」	21 22	
			お正月「松花堂弁当」 お正月「松花堂弁当」 お正月「松花堂弁当」	1 1 1	
			手作りおやつ「クレープ」 手作りおやつ「クレープ」 手作りおやつ「クレープ」	26 26 26	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
11月			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	電気設備点検 消防設備点検 エレベーター点検 移動散髪
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
12月			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	電気設備点検 消防設備点検 エレベーター点検 移動散髪
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
1月			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	電気設備点検 消防設備点検 エレベーター点検 移動散髪
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
2月			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	電気設備点検 消防設備点検 エレベーター点検 移動散髪
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
3月			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	電気設備点検 消防設備点検 エレベーター点検 移動散髪
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	
			手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」 手作りおやつ「ベビーカステラ」	25 25 25	

八起会ホームヘルプステーション

(令和 5 年度 総括)

1. 総括

令和 5 年度も在宅サービスを支える使命感を持ち、基本サービスに加え、感染対策をより強化した体制で臨んだ。コロナ感染症の分類変更後も、感染者が全くなくなったわけではなく感染症と診断され利用中止される方がおられたり、職員自身がコロナ感染者となり派遣の制限を余儀なくされたこともあった。また、施設サービスに移行され利用が中止になった方も多かった。その結果、当初の計画以上のサービス提供利用人数やサービス回数に達することができなかった。

一方で他サービス事業所や居宅介護支援事業所との連携を密にし、利用者の要望に応え満足度を高められるよう努力することを事業所の全員が共有し、事業推進を行った。また、サービスの質の向上をより明確にするため、研修へ参加させ基盤づくりを行った。

昨年同様に障害者総合支援法に基づくサービスは、地域会議が新型コロナウイルスの影響で中止されたこともあり、地域のニーズや障がい者サービスの動向の調査を継続することができなかった。その結果、同行援護・居宅介護・重度訪問介護サービスの新規利用者はゼロであった。

□ 業務面より

令和 5 年度は、前年度以上に居宅介護支援事業所と密に連携を図る等の対策を講じたが、事業所登録利用者数は 45 名と前年より 4 名減となった。

障害者総合支援法に基づくサービスにおける利用者数は 5 名(令和 4 年度 4 名)となった。ヒヤリハット事例は 3 件(令和 4 年度 1 件)、事故件数は 1 件(令和 4 年度 1 件)、苦情件数は 1 件(令和 4 年度 5 件)であった。

□ 経営面より

介護保険利用者延べ人数は、561 名(令和 4 年度 584 名)の 23 名の減となった。派遣回数は 4,847 回(令和 4 年度 5,092 回)と 245 回の減となり、サービス提供時間は 3,442 時間(令和 4 年度 3,593 時間)と 151 時間の減となった。

障害者総合支援法における利用者への派遣回数は、対象者が介護保険サービスと総合支援サービスを複合利用されたことにより 317 回(令和 4 年度 278 回)と 39 回の増であった。

サービス活動収益は、18,040 千円で、訪問回数の減少により前年対比 996 千円減収した。人件費は前年対比 318 千円増。物件費等は前年比 219 千円減。減価償却費は前年対比 293 千円減。その結果、サービス活動増減差額は前年対比 801 千円減であった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	18,040	14,870	1,141	330	1,699
4 年度	19,036	14,552	1,360	623	2,500
3 年度	17,781	16,942	1,497	444	▲1,102

2. 利用者数(派遣利用者数)

ホームヘルプステーション

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
介護保険 (人数)	43	45	46	49	50	51	284
派遣回数	365	424	439	436	463	453	2,580
サービス 提供時間	263	306	312	307	322	305	1,815
障害者 総合支援 (人数)	3	3	4	5	4	4	23
派遣回数	23	26	28	29	28	26	160
サービス 提供時間	24	29	29	33	29	27	171

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計	合計
介護保険 (人数)	52	49	46	42	44	44	277	561
派遣回数	437	396	360	363	360	351	2,267	4,847
サービス 提供時間	307	281	260	263	262	254	1,627	3,442
障害者 総合支援 (人数)	4	5	4	4	4	5	26	49
派遣回数	29	29	27	25	23	24	157	317
サービス 提供時間	31	32	26	25	24	27	165	336

3. ホームヘルプステーション職種別職員数(令和 6 年 3 月 31 日現在)

	所長	サービス提供 責任者	ヘルパー職員
常勤職員	1(1)	2(2)	3(2・サ責含む)
パート等非常勤職員			3
合計	1(1)	2(2)	6(2)

() : 内兼務

介護老人福祉施設もみじ(入所・短期入所)

もみじデイサービスセンター

もみじケアプランセンター

(令和 5 年度 総括)

1. 総括

令和 5 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが 2 類相当から 5 類感染症に変更となったが、もみじ全体としては高齢者施設のため感染対策は今まで同様、継続して実施を行った。職員の更衣や休憩などは勤務フロアごとに分けて行っていたため、施設入所者から感染症が認められた場合でも、ショートステイ、デイサービス共に通常営業を行うことができ、在宅サービスの利用を希望する家族の安心につながり、また、利用率の維持・向上につながった。ただし、施設入所においては空床となった場合でも、感染発症のため次期入所のアプローチが後手になり、空床期間が空いてしまった。在宅サービスと共に、各関係機関と連携を密に行うことで、より安心したサービスへとつながり利用率向上につながっていきと感じた。

人材の定着を意識した施設内の環境については、補助金による ICT の整備と介護ロボットを導入し、職員の負担の軽減を図った。令和 5 年度は新卒採用者が 3 名加わり、退職者が少なく安定した運営を行えたが、特に介護補助職員に関しては高齢化が否めない。正規職員の採用は法人本部担当者による尽力が大きいが、非正規職員については地域の信用度や密着度によることが多いため、今後も施設としての努力が必要と思われる。

介護福祉士の試験に 4 名が合格となり、今後もサービスの質の向上に努めていきたい。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	365,267	234,133	88,374	27,810	14,951
4 年度	359,612	224,913	95,153	29,613	9,933
3 年度	360,917	233,019	87,326	32,136	8,436

(1) 施設入所事業

令和 5 年度は退所者が 20 名、平均 21.1 日の空床期間での入所となった。入所施設での感染症発生時に感染が落ち着くまで入所受け入れをすることができなかつたり、上位者に入所の空きが出たと連絡を行うも返答に迷われたりと保留にされるケースも少なからずみられた。今後は待機上位者への事前の聞き取り等を行い、空床期間をより短くスムーズに入所へつながるよう家族面談等の取り組みが必要である。利用率は前年度より落ちたものの、支出を極力抑えることによりサービス活動増減差額は前年度より約 1,500 千円の増額となった。

開設から 20 年以上経過する施設内機器についての更新も必要であり、特にナースコールについては喫緊の課題ではあるが、見積もりの提出に時間がかかり年度内の更新には至らなかつた。

ただし、入れ替えについての進捗状況は良く、令和 6 年度上期に導入予定としている。

(空床期間:令和 2 年度 10.2 日、令和 3 年度 13.3 日、令和 4 年度 16.9 日)

年間利用率は 96.86%(令和 4 年度 98.10%)であった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	219,682	137,425	55,064	18,251	8,942
4 年度	218,237	131,095	59,654	20,047	7,441
3 年度	213,394	137,198	54,551	21,365	280

(2) 短期入所事業

令和 5 年度の利用率目標である 80%は達成できた。前年同様、利用が 1 回のみの方が数名おられたが、各介護支援専門員からの長期利用者や緊急ショートの入受を積極的にを行い、在宅のサービスを必要とされる家族のニーズに応えた。

また、ショートステイを利用される利用者満足度を上げる取り組みとしてレクリエーションなどの余暇活動を充実させ、利用継続を実現できた。特に家族にとって利用しやすい事業所として認知いただけるように今後も安定した利用率を維持していく。

ショートステイの事業についてはサービス活動増減差額のマイナスを前年よりやや抑えることができたが、今後も継続して努めていく。

年間利用率は 81.60%(令和 4 年度 76.84%)となった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	70,556	52,572	19,583	4,959	▲6,559
4 年度	66,587	51,789	20,818	4,932	▲10,952
3 年度	68,490	52,923	19,290	5,505	▲9,227

(3) もみじデイサービスセンター

令和 5 年度も目標達成には至らなかつた。新規利用者、スポット利用も積極的に受け入れを実施したが、入院者や老健施設を利用される方が多く、利用率拡大までには至らなかつた。新型コロナウイルス感染症の対策緩和により、レクリエーション活動の幅を広げたり、月 1 回の散髪サービスの導入等、近隣デイサービスにない取り組みや、サービス利用中止中の独居の方へ手紙を送ったりと利用継続を行うための策を実施した。

冬季の積雪や台風等の影響を受けやすい地域であるが、今年度については影響が少なかった。自然による中止の 1 日に影響されることは大きいため、その点での対応も必要である。

年間利用率は 62.92%(令和 4 年度 62.04%)となった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5年度	57,483	29,605	13,002	4,401	10,476
4年度	56,603	27,573	13,917	4,411	10,702
3年度	59,902	27,970	12,693	5,107	14,132

(4) もみじケアプランセンター

ケアプランセンターでは地域の民生委員との会議に出席することにより、地域の困りごとを直接聞き取りし、介護の窓口としての役割を担い、新規利用者につなげている。また、地域住民との会議にも積極的に参加し、住民と事業所が近い存在であることのアピールを行った。一般市民には難しい介護保険の内容やその利用方法など、持っている知識の発信も必要となる。

今後も地域・関係機関との連携を深め、介護の困り事など開かれた窓口として役割を広げ地域福祉に貢献できるよう努めていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5年度	17,546	14,531	725	198	2,091
4年度	18,185	14,456	765	223	2,741
3年度	19,131	14,928	793	159	3,251

2. 年間延べ利用者数(もみじ入所・短期入所・もみじデイサービスセンター・もみじケアプランセンター)

(1)もみじ入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者 延べ人数	1,439	1,550	1,496	1,519	1,512	1,450	1,503	1,495	1,437	1,433	1,430	1,455	17,719
(内)入 院・外泊 数	0	0	14	21	2	0	0	0	61	13	26	54	191

(2) もみじ短期入所生活介護(予防含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者 延べ人数	507	531	457	498	537	497	534	549	529	432	441	454	5,966

(3) もみじデイサービスセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	要支援	11	9	10	10	9	9	12	14	16	15	15	18	148
	要介護	48	47	47	49	54	53	53	55	52	49	50	54	611
延べ 利用 日数	要支援	48	40	60	51	45	55	59	67	67	61	76	61	690
	要介護	460	476	498	517	532	532	563	541	502	446	463	499	6029

(4) もみじケアプランセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画 作成 数	予防	35	37	39	40	40	37	40	41	44	45	43	42	483
	介護	73	72	73	71	74	77	78	75	77	77	73	69	889
合計		108	109	112	111	114	114	118	116	121	122	116	111	1,372

3. 職種別職員数(令和6年3月31日現在)

事業	職種	施設長・管理者	事務長	事務員	介護支援専門員	生活相談員	管理栄養士	看護職員		介護職員		嘱託医	指導員 機能訓練		その他	合計
								常勤	非常勤	常勤	非常勤		常勤	非常勤		
入所	入所	1	0	2	1	2	1	5	0	24	5	1	1	0	18	61
	短期 入所	(1)			(1)		(1)	(2)		(1)	5	1	(1)	0		(7)
デイ サービス		1	0	0	0	2	1	1	2	3	6	0	1	2	3	22
		(1)				(2)	(1)	(1)	(2)	(2)	6	0	(1)	(2)		(12)
ケアプラン センター		1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		(1)														(1)
合計		3	0	2	4	4	2	6	2	27	11	1	2	2	21	87
		(3)			(1)	(2)	(2)	(3)	(2)	(3)	11	1	(2)	(2)		(18)

() : 内兼務

4. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

特別養護老人ホーム あぼし(入所・短期入所)

(令和 5 年度 総括)

1. 総括

令和 5 年度も事業計画に基づき「利用者本位のユニットケア」に努めた。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を最小限に留め運営することができた。また、面会や湖南市の相談員の受け入れ等を再開したことで、地域や利用者家族との関りも少しずつではあるが、改善することができた。

サービス提供においては、本年度もケアの質の向上を目指し、職員一人ひとりが基本に立ち戻り、利用者の人権・尊厳を意識したケアの実施に取り組んだ。その中でも看取りケアについては、マニュアルの作成や研修を行ったことで、職員全体の看取りに対する理解と意識を高めることができ、結果として看取りケアを更に深めることができた。

下期に大幅な人事異動を行ったことと退職者が多数発生したことから、職員の負担が増加し、モチベーションの低下につながってしまった。次年度については、適正な人員の補充と業務改善や新たな介護機器の導入等を通して職員の負担軽減に努め、働き甲斐、働きやすい職場環境の整備に努めていく。また、職員の教育にも注力し、施設全体のレベルアップを目指す。

令和 6 年度も職員が一丸となり、利用者の人権・尊厳を大切にされたケアを実施していく。

<時系列推移表 施設全体>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	358,953	199,926	84,351	21,955	57,720
4 年度	352,581	207,357	84,121	22,548	36,122
3 年度	342,027	200,103	83,162	22,251	36,511

(1) 施設入所事業

利用率 96.68%と目標値達成には至らなかったが、新たな加算の取得と人件費の削減により増収が図れた。本年度は退所者が多かったことと、長期入院者が多かったことが、利用率が未達となった要因として考えられる。次年度においては、これまで同様に次期入所者の選定を迅速に行い空床期間の短縮に努めていく。また、入院者を最小限にしていけるよう、介護力を向上し、利用者の健康管理に努めていく。入院者が出た際には、医療機関との連携をこまめに行い、一日でも早期に退院調整が行えるよう努めていく。

本年度の退所者(死亡等)は 24 名で、現在の待機者は 80 名となっている。迅速な選定を行うためにも常に待機者の意向調査や面談等を行っていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	315,699	168,798	72,956	16,569	57,376
4 年度	317,552	175,113	73,142	17,064	50,069
3 年度	305,984	168,971	72,523	16,769	47,721

(2) 短期入所事業

本年度も在宅で生活されている要支援・要介護高齢者の自立(自律)へ向けてのサービス提供、また、利用者本人のみならず家族の支援も踏まえたサービスの提供および「施設と在宅の一元化」を目指したサービスの提供に努めた。

利用率は 78.21%と目標を達成することができた。本年度は相談員が 2 名体制となったこともあり、利用者家族や居宅介護支援事業所からの依頼に対し迅速に対応できたことが利用率達成の要因と考えられる。

次年度においても新規利用者の獲得に向け、積極的な受け入れ態勢と柔軟なサービス対応に努め、居宅事業所との連携の強化とサービスの質を向上していくことでリピート利用に繋げていきたい。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	43,253	31,128	11,394	5,386	▲4,655
4 年度	35,028	32,244	10,978	5,485	▲13,947
3 年度	36,043	31,131	10,638	5,483	▲11,209

2. 年間延べ入所・利用者数 (上段:あぼし施設入所・下段:短期入所)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
施設入所者	1,747 (40)	1,745 (13)	1,737 (42)	1,829 (48)	1,810 (50)	1,770 (52)	1,827 (2)	1,751 (63)	1,805 (46)	1,829 (52)	1,671 (23)	1,786 (20)	21,307 (451)
短期入所利用者	245	256	221	265	276	266	267	288	278	303	223	261	3,149
合計	1,992	2,001	1,958	2,094	2,086	2,036	2,094	2,039	2,083	2,132	1,894	2,047	24,456

*施設入所者欄 ()は入院による空床日数(内数)

3. 職種別職員数(令和6年3月31日現在)

	施設長	事務員	生活相談員	介護支援専門員	管理栄養士	介護職員		看護職員		機能訓練指導員	調理員	医師		その他	合計
						常勤	非常勤	常勤	非常勤			常勤	非常勤		
施設入所事業 短期入所事業	1	1	2	1	1	25	11	3	2	1 (1)	委託	/	1	11	60 (1)

*介護支援専門員は特養専任

() : 内兼務

4. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

令和5年度 行事等実施報告書(あぼし)

項目 月	行事		職員研修・職員会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理	
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
4月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議			5	厨房害虫駆除
	4	お花火ドライブ	4	役職者会議			13	ファイール(移動散髪)
	5	手作りおやつ会	4	給食会議				
	25	映画観賞会	4	入所検討会議				
			12	事務一元化会議				
5月	毎月	お誕生日会	19	あぼし感染委員会			1・2	床ワックス清掃
	15	居室面会開始	21	身体拘束廃止虐待防止検討委員会			12	ファイール(移動散髪)
	5月下旬	野菜植え	9	給食会議			10	特浴室電灯修理
			9	入所検討会議			24	排水管洗浄
			11	NS会議				
6月	毎月	お誕生日会	17	フレッシュマンリーダー研修			12・19	エレベーター点検
	6月下旬	花植え	毎月	ブロック会議			12	配水高圧洗浄
	12	風船パレード	6	役職者会議			15	ファイール(移動散髪)
			6	給食会議			13	洗濯室電解水修理
			6	入所検討会議			21	汚水配管修理
7月			28	施設長会議			22	利用者健康診断
	毎月	お誕生日会					28	職員健康診断
	3	皆でケーキ作り	19	ブロック会議			30	空調設備点検
	1~7	七夕合同企画	6	役職者会議			5	厨房害虫駆除
			4	給食会議			4・10	職員健康診断
8月	毎月	お誕生日会	4	入所検討会議			14	ファイール(移動散髪)
	4	ゴーヤを作ろう	4	給食会議			1	エアコン修理
	21	かき氷作り、食べよう	6	NS会議			2	利用者6回目コロナワクチン接種
			8	認知症介護実践者研修			18	厨房機器修理
			10	新人フォローアップ研修			23	無線LAN工事
9月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議			22・29	トイレ配水工事
	14・15	あぼし花火大会	毎月	ブロック会議			30	ファイール(移動散髪)
	27	縁日	8	役職者会議			27	消防設備点検
			8	給食会議			28	厨房機器点検
			10	新人フォローアップ研修				
10月	毎月	お誕生日会	5	ブロック会議			22	ファイール(移動散髪)
	3	プリンアラモード作り	5	役職者会議			26・27	窓ガラス清掃
			5	給食会議			26・27	空調フィルター清掃
			5	入所検討会議			21	厨房配膳車修理
			4	感染対策委員会				
11月	毎月	お誕生日会	22	フレッシュマンリーダー研修			12	ファイール(移動散髪)
	3	プリンアラモード作り	毎月	ブロック会議			13	エレベーター点検
			3	役職者会議			15	ボイラー点検
			3	給食会議			17	厨房内・カステールブル点検
			10	NS会議			19	天井水漏れ修理
12月	毎月	お誕生日会	26	医療的ケア委員会			20・30	職員インフルエンザ予防接種
	24	ハンドベル演奏会	毎月	ブロック会議			1・2	ワックス床掃除
			7	役職者会議			1	ユニバス修理
			7	給食会議			8	職員インフルエンザ予防接種
			7	入所検討会議			9	天井水漏れ修理
1月	毎月	お誕生日会	21	リスクマネジメント委員会			13~17	配管工事
							19	利用者インフルエンザ予防接種
							20	ファイール(移動散髪)
							12・14	ファイール(移動散髪)
							14	エレベーター点検
2月	毎月	お誕生日会	13	NS会議			12	EPA監査
	2	豆まき大会	5	ブロック会議			18	水道節水蛇口点検
			6	役職者会議			18	ファイール(移動散髪)
			6	給食会議			19	夜勤従事者健康診断
			6	入所検討会議			23	厨房害虫駆除
3月	毎月	お誕生日会	7	感染対策委員会			15	空調設備点検
	11	100歳祝い会	11・13	内部研修				
			毎月	ブロック会議			13	ファイール(移動散髪)
			5	役職者会議			14	エレベーター点検
			5	給食会議			8.9	窓ガラス清掃

通年

毎週火・土 利用者歯科往診
毎週土 利用者小川Dr.往診

デイサービスセンター にこここ

(令和5年度 総括)

1. 総括

- ・利用者が住み慣れた地域で顔馴染みの人と一緒に安心した生活が少しでも長く続けられるように、認知症の進行予防に重点を置き、利用者それぞれの状態に合わせた対応を心がけ、一人ひとりが個性を発揮して、やりがいを持ち、いきいきと楽しく過ごしていただけるような雰囲気作り、ケアの提供に努めた。
- ・利用者の認知症の進行予防につながる活動として、その方の能力や個性に応じて活動メニューを決め、洗濯物たたみ、ビニール袋たたみ、シール貼りなどの日常生活の中の作業を利用者にも手伝っていただき、活躍できる場面を意図的に設けるようにした。利用者からも「何か手伝おうか」などの声が聞かれ、自分の好きな事、自信を持ってできる事なのでいきいきとした表情で取り組まれているため、このまま継続していきたい。何もしたくないと言う方には苦手な事を無理にするよりゆっくりしていただくとう会話を楽しんでいただいている。畑で野菜を育て、花壇には花を植え、四季折々の体験をして、懐かしい話で回想し、いろんな会話に花を咲かせ、その時が笑顔になれる取り組みを心掛けた。また、時には折り紙・編み物・歌・よし笛のボランティアを迎え楽しいひと時を過ごしていただいた。編み物は、好きな方が多く、意欲的に取り組まれていた。帰る前には、皆さんで懐かしい歌を唄い、楽しい気分で帰所していただいている。
- ・毎日、「百歳体操」(午後に30分、DVDを視聴ながら取り組む)を今年度も継続して行い、身体機能の維持、低下予防に努めた。利用者の中で習慣となった方もあり、意欲的に取り組まれている。ルームサイクルを使用し、昼食後の5分から15分の運動を取り入れ下肢筋力の維持に努めている。午前・午後の集団体操では、全身を使い固くなった筋肉を少しほぐしている。
- ・利用者一人ひとりの認知症の症状に着目して観察を行い、ミーティングで情報共有し、ケアの改善を図り、利用者・利用者家族、ケアマネジャーと連携を取るよう努めた。認知症の症状が日々変化していく方々を職員の思い込みにならないように話し合い共有している。
- ・毎月、居宅のケアマネジャーに渡すモニタリングの用紙にその月の行事や日々の様子を写真にして載せたり、利用者家族には手紙にしている(28年度から継続)。また、八起会のブログを見ていただけるように案内している。
- ・運営推進会議は、年に2回実施。(7月・2月)地域の方々にはこここを知っていただき、地域との連携を重要視して、何か一緒にできる事はないか話し合う機会ができた。
- ・「にこここカフェ・介護なんでも相談所」(湖南市認知症地域支援推進事業)を毎月第2・4土曜日に開催している。編み物の先生を招き、編み物好きな方が、4人来て下さいました。他には、介護相談も数件あり、地域包括支援センターからカフェの案内をされたり訪問された。本年度は、愛宕祭り・地区の祭りに参加させていただくことができ、いろいろな方との交流も深まった。湖南市まちおこし協力隊の地域支え合い部会の協力もあり年間約150人余りの方の来所があった。広報活動としては、市役所、図書館、老人福祉センターに案内文を置かせていただいたり、回覧板で地

域へ発信しており、広告をみたという電話での相談もあった。来所される方は近所の方で、相談内容としては、「介護認定を受けてケアマネをどこに頼んだらいいのか、誰がいいのか」等で前年度より相談所としての役割ができてきたと感じている。

- ・本年度は、地域の方へ「市民講座」を開催することができ、約60名の参加をいただいた。アンケートでは「良かった。」「実体験が聞けて勉強になった。」等の感想が聞けて、良い経験をすることができた。
- ・「介護者の集い」を地域の施設を借り開催することができた。5月と1月の計2回実施。参加者は、合計7名で自宅で介護されている方が日々の思いを話せる場を作れた。いろいろな方との交流で地域の支援を活用していただける場を提供できたと考える。今後いろいろな年代の方が足を運んで下さる場になるように内容を検討していきたい。
- ・地域密着型の事業所として、次年度も引き続き、避難訓練や認知症をテーマにした学習会の開催等、地域の方との関わりの場を積極的に設けていきたい。

(時系列推移表)

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5年度	20,247	13,748	3,293	3,085	121
4年度	23,203	12,516	3,483	2,856	4,348
3年度	20,872	13,380	3,463	2,717	1,311

2. 年間延べ利用者数

令和5年度末現在の登録利用者数は17名。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数	149	164	119	121	116	125	138	143	137	134	162	164	1,672
1日当たり	7.45	7.13	5.41	5.76	5.04	5.95	6.27	6.50	6.52	6.70	7.71	7.81	6.52
利用率(%)	62.08	59.42	45.08	48.02	42.03	49.60	52.27	54.17	49.64	55.83	64.29	65.08	53.90

※. 令和5年度の1日平均利用者数は6.5名、利用率53.90%(令和4年度の1日平均利用者数は7.1名 利用率58.98%) 人数で1日0.58名減、利用率は、約5.08%減であった。年間の利用者延べ人数は1,672名(介護給付のみ、介護予防は0名)、前年は延べ人数1,856名であり今年度は184名減った。平均要介護度は1.6(令和4年度は2.1)。

※. 年間の延べ人数、1日の平均人数、利用率ともに4年度と比較して減少。令和6年度の目標は、70%(1日平均8.5名)で設定した。必ず達成できるように職員で力を合わせて日々のケアの質の向上を図り、新規利用者の獲得、現在利用されている方の満足度の向上に努めていきたい。

利用率の推移を見ると、5 月末から新型コロナウイルスが蔓延して、2人の利用者が退所となった。その後、他事業所へのアプローチを行うことで、後半になって新規利用者が増えてきた。次年度は、みやのりのデイサービスの利用者を受け入れる事で、本年度以上に利用率が上がると考えられる。現在の職員数でケアの質を落とすことなく、皆様に楽しんでいただける場の提供を継続していきたい。

2. 職種別職員人数(令和6年3月31日現在)

	管理者	生活相談員	ケアワーカー	看護師
常勤職員	1(1)	2(2)	2(2)	1(1)
非常勤職員	0	0	2	0

():内兼務

令和5年度 行事等実施報告書(ここにこ)

項目 月	行 事		職 員 研 修・職 員 会 議 等		災 害 訓 練		健 康 管 理・衛 生 管 理	
	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容
4月	7・27	手作りおやつ(どらやき)	25	行事食(外注) カレンダー制作	5	フロア会議	5	有川製菓
			27・28		18	あんしん相談員会議		
					24	施設長会議		
5月	1・29	誕生日会	30・31	カレンダー制作	19	ほほえみネットの研修	19	人権研修
	15	行事食(カレーライス)			29	施設長会議	22	ワックス
6月			3・29	カレンダー制作	3	フロア会議	14	消防・避難訓練
			21・23	手作りおやつ(タコ焼き)	16	管理者研修		
			30	手作りおやつ(おやき)	17	介護者の集い		
					20	あんしん相談員会議		
					28	施設長会議		
7月	6・11	手作りおやつ(ワッフル)	27・28	カレンダー制作	7	若年性認知症勉強会	4	健康診断
	12	ちらし寿司			8	運営推進会議	10	健康診断
					21	施設長会議		
8月	7・11	行事食(お好み焼き)	15	行事食(そうめん)	17	あんしん相談員会議	1	感染研修(動画)
			30・31	カレンダー制作	18	管理者研修		
9月	6	歌のボランテニア	15	焼きそば	6	通所会議		
	7	お好み焼き	15	敬老会(のぎくの会)	25	施設長会議		
	20	スイートポテト	15	手作りおやつ(フルーツポンチ)	30	管理者研修		
			21	誕生日会				
			28・30	カレンダー制作				
10月	2	折り紙	11	行事食(さつまいも天ぷら)	3	フロア会議	6	消防・避難訓練
	4	誕生日会	30・31	カレンダー制作	17	あんしん相談員会議	17	有川製菓
	13	誕生日会			26	施設長会議	20	インフルエンザ予防接種
	17	誕生日会			27	通所会議	30	インフルエンザ予防接種
11月	15・28	手作りおやつ(スイートポテト)	16	行事食(にゅう麺)	7	フロア会議		
			17	よし笛	11・14	人権研修	8	インフルエンザ予防接種
			29・30	カレンダー制作	29	施設長会議	10	ワックス
12月								
1月	4・5	行事食(すき焼き)	11・12	ぜんざい	26	施設長会議		
	4・5	書初め	16	折り紙				
	8	誕生日会	19・23	手作りおやつ(たこ焼き)				
			30・31	カレンダー制作				
2月	6	誕生日会	19,20	行事食(おでん)	6	あんしん相談員会議		
	12	編み物	28	手作りおやつ(ベビーカステラ)	10	運営推進会議		
	14	歌のボランテニア	28・29	カレンダー制作	16	管理者研修		
					20	通所会議		
3月	4	誕生日会	15	行事食(田楽茶屋)	10	若年性認知症勉強会		
	7	誕生日会	22	誕生日会	10	本人ミーティング		
	8	誕生日会	28	にゅう麺・誕生日会	25	施設長会議		
			28・29	カレンダー制作				

地域密着型特別養護老人ホームみやのもり(入所・短期入所)

みやのもりデイサービスセンター

八起会みやのもりリハビリステーション

(令和 5 年度 総 括)

1. 総括

「個別の尊重・利用者様の安心と満足できるサービス提供が行えるよう、職員一人ひとりが学びを深め、互いに成長できるように行動する。」ことを施設目標としている。

本年度は、感染状況が緩和されたことにより、実地研修を取り入れ職員の学びを深める機会を多くし、互いに意見をし合える場を設けることで、相互理解や施設全体の共有認識が高められるように努めた。また、運営推進会議も定期開催でき、地域での課題や施設状況の共有に努めた。

利用者サービスの向上のために行事を増やすことで季節感を味わってもらい、施設開所してから初めて、近隣住民への承諾を得て花火行事を実施することもできた。

<時系列推移表:施設全体>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	256,961	166,767	61,215	21,977	7,002
4 年度	252,852	163,605	61,628	22,000	5,617
3 年度	241,659	153,496	60,106	22,423	5,634

(1) 施設入所事業

近年、入所者の重度化に加えて、日常生活継続支援加算により、要介護 4 以上と重度認知症入所者が増加し、身体介助や認知症への対応、医療面などを含めて介助量はさらに増加している。

看取期の入所者家族希望を叶えるため、一時的な帰郷にも取り組み、入所者・入所者家族にとっても満足度を上げられた。入所者が重度化する中でも研修を通じて職員のスキル向上にも努められた。新型コロナウイルス感染症の影響は継続し、家族面会については制限を設ける形での実施となった。施設内感染も起こった状況ではあったが、最小限での感染に抑えられ、クラスターになるような状況までには至らず業務も継続できた。

業績面は、今年度の退所者は 8 名(令和 4 年度 8 名)。利用率は 98.20%(令和 4 年度 98.93%)であった。

近年の懸案事項である入所申込み数は、52 名(令和 4 年度 67 名)であった。新規申し込み者が減っている状況もあり、獲得に向けては懸案事項となっている。新規利用者の受け入れがスムーズに行えるよう、入所事前面接を随時行い、空床期間の短縮に努めていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	170,476	91,818	36,670	15,865	26,124
4 年度	166,993	88,616	36,270	15,968	26,137
3 年度	160,801	81,331	34,509	16,449	28,511

(2) 短期入所生活介護事業

在宅で生活されている要支援・要介護高齢者の自立(自律)へ向けての「施設と在宅の一元化」を目指したサービスの提供並びに利用者家族の介護負担の軽減(レスパイトケア)を図れるサービスの提供に努めた。

今年度の利用率は77.17%と年間目標(75%)を上回る結果となった。レスパイト的利用を積極的に受け入れ、ショートステイの看取り対応までできたことが要因の一つと考える。ただ、リピーター利用者には大きな変化はなく、今後も医療重度者の柔軟な受け入れが必要と考えられる。

今後の対策として、医療との連携強化に努め、急な受け入れ相談にも対応し、サービスの質の向上を図り、利用者・利用者家族の満足度を向上させリピーターを増やしていけるよう努めていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5 年度	54,821	43,590	14,417	3,760	▲6,945
4 年度	43,205	38,667	13,687	3,852	▲13,001
3 年度	46,006	36,759	12,900	3,881	▲7,534

(3) みやのもりデイサービス事業

自分らしく在宅生活を継続していただけるよう支援に努め、短期入所生活介護事業と連携を図り、潜在的な在宅ニーズに働きかけ運営を行ってきた。また、職員一人ひとりが利用者に満足していただけるように目標を持ち、利用者様の満足度を上げられるように努めた。

定期的に新規利用者も受け入れを行ってきたが、医療的ニーズが高い方も多く、定期利用に繋がりにくい状況や令和6年度の事業休止にあたり新規受け入れをストップしたこともあり、利用率50.58%(令和4年度62.55%)と目標を大きく下回る結果となった。

今後については、令和6年度6月末の休止に向けて、利用者様の事業所以降がスムーズに行えるよう、受け入れ先との情報交換を密に行い進めていきたい。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5年度	28,232	27,492	9,142	1,730	▲10,131
4年度	35,061	29,147	9,879	1,745	▲5,710
3年度	33,425	30,261	10,492	1,772	▲9,099

(4) みやのもりリハビリステーション事業

利用者が自立(自律)した日常生活を営むことができるよう、通所型サービスのうち緩和した基準によるサービスとして運営を行った。

特色であるリハビリ機器を十分に活用したりハビリメニューを実施し、また、専門職によるリハビリ指導やアドバイスを行うことで、総合事業の役割を果たすよう努めた。

平均登録者数18名で利用率 47.87%(令和4年度 65.60%)であった。新規利用者が継続利用に繋がらないことや入院での利用継続終了が多く、登録者も減る中で利用率も低下した。今後、地域包括支援センターとの連携を図り、利用対象者の情報収集を密に行い、継続利用に繋がっていきたい。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5年度	3,431	3,867	986	622	▲2,045
4年度	4,507	3,806	1,357	527	▲1,183
3年度	4,228	3,237	1,417	351	▲776

2. 年間延べ利用者数

(1) みやのもり施設入所事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	27	29	28	27	29	29	29	29	28	29	28	28	340
入院外泊数	5	1	13	19	19	0	0	0	21	0	19	0	97
合計	32	30	41	46	48	29	29	29	49	29	47	28	437

(2) みやのもり短期入所生活介護事業(ショートステイ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	45	42	41	36	39	38	44	41	41	35	32	33	467

(3)-1 みやのもりデイサービス事業

(介護のみ 予防なし)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
デイサービス	31	31	29	30	32	30	31	34	32	30	27	27	364

(3)-2 みやのもりデイサービス登録者数 (令和6年3月31日現在)

申請中	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
0	1	2	1	2	3	4	5	
0	0	1	7	13	5	0	2	28 男性 9 女性 19

(4) みやのもりリハビリステーション事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者	19	20	21	18	16	17	17	17	19	18	17	17	216
延べ利用者数	74	84	82	63	41	60	68	48	65	59	51	67	762

3. 職種別職員数(令和6年3月31日現在)

	施設長・所長	事務員	生活相談員		介護支援専門員	管理栄養士	栄養士	介護職員		看護職員		機能訓練指導員 常勤	調理員	医師		その他		合計
			常勤	非常勤				常勤	非常勤	常勤	非常勤			常勤	非常勤	常勤	非常勤	
施設入所事業	1	1	1	1	1	1		19	7	3	1	1			1	1	4	43
短期入所生活介護	{1}				{1}					(1)	(1)	(1)						{2}
デイサービス	(1)		2					3	2	1	1	1						11
	(1)		(2)					(2)		(1)	(1)	(1)						(6)
リハビリステーション	1											1						2
	(1)											{1}						{1}
合計	3	1	3	1	1	1		22	9	4	2	3			1	1	4	56
	(2)		(2)		{1}			(2)		(2)	(2)	{1}						{10}
	{1}																	{3}

() 内施設事業所内兼務 ・ { } 内本体施設兼務

4. 年間行事等実施内容
別紙のとおり

デイサービスセンターこんぜの郷

こんぜデイサービスセンター

(令和5年度 総括)

1. 総括

(1) デイサービスセンターこんぜの郷

- ・こんぜの郷は、栗東市の認知症要介護者の「よりどころ」となり、利用者の意志や人権を尊重し、利用者一人ひとりに合わせた環境で自己実現・自己表現ができるデイサービスとなるよう努めている。また、要介護者が住み慣れた地域で安定した生活が継続できるよう機能訓練指導員が毎回個別機能訓練を実施し、認知機能、身体的機能の維持向上にも努めている。利用者の様子を写真に撮り家族に配布し普段の様子や状態の報告を実施することで利用者家族との信頼関係構築にも取り組んでいる。しかし、こんぜデイサービスセンターと併用されていた利用者が多く、こんぜデイサービスに全曜日変更されるケースが続き登録者数の減少となった。
- ・年度末の登録利用者数は2名となっている。
- ・平均要介護度は1.5であった。
- ・運営推進会議を3回開催。特定の運営推進委員からは意見があるものの他委員からはあまり発信がない為、今後意見を発信しやすい雰囲気や対策が必要である。
- ・本年度も栗東市と協同し、認知症カフェを実施(11回開催)した。広い範囲で認知症講座や認知症予防の体操などを実施し、内容に関しては好評であった。参加人数も増加しており毎回15名程度の参加で定着してきた。近隣の知り合い同士で連絡を取り合いながら一緒に参加されることが多くあり、地域のつながりも構築出来ていると考えられる。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5年度	3,129	18,024	3,997	2,393	▲21,285
4年度	3,887	18,452	4,232	2,589	▲21,386
3年度	8,710	22,375	4,121	2,658	▲20,444

(2) こんぜデイサービスセンター

- ・運営面については、栗東市の在宅介護の拠点となるよう地域に根ざした活動に努めた。利用者の趣味や興味関心があることなどの情報を収集し、午前中に取り組めるように努めた。事業所の特色であるリハビリ設備(足こぎバイク・平行棒・ショルダーマシーン・リハビリスロープ・バンドグリップ等)を活かし、個別機能訓練に重きを置き取り組み、既存利用者、利用者家族から喜びの声も多く満足度は向上している。また、入浴に関しても、3つの浴槽を活かし利用者一人ひとりに合わせた入浴ができるよう取り組めた。
- ・今年度の一日平均利用者数は13.0名、年間の利用者延べ人数は4,327名となり、前年度と

比較し136名の増となった。要因としては、DSこんぜの郷から利用者が移行されたことによるものであるが、新規利用者の獲得が少なかったことや、入院や入所など在宅での生活が困難になり登録抹消となるケースもあった。

- ・平均要介護度は2.1であった。
- ・年度末の登録利用者数は38名であり、前年度とほぼ変動がなかった。
- ・本年度も地域との関わりが実現できなかったが、地域で八起会の知名度を高め、信頼され必要とされる事業所となり、利用者、利用者家族、地域の方々、各関係事業所等の要望等に柔軟かつ迅速に対応できるよう努めていきたい。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5年度	40,661	18,028	9,374	4,425	8,835
4年度	38,056	21,268	8,983	4,996	2,809
3年度	44,298	22,410	10,317	4,975	6,596

2.年間延べ利用者数(DSこんぜの郷・こんぜDS 上段:介護 下段:予防)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
DS こんぜの郷	25	23	28	29	29	18	18	17	11	10	12	13	233
こんぜ DS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DS こんぜ	291	339	358	358	365	396	385	366	400	365	367	342	4,327
DS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3.職種別職員数(令和6年3月31日現在)

形態	職種	管理者	事務員	生活相談員	介護職員		看護職員	機能訓練指導員	調理員	運転手
					常勤	非常勤				
DS こんぜの郷		1 (1)		1 (1)	2 (1)	1		1 (1)	1	1
こんぜ DS		1 (1)		1 (1)	4 (1)	1	1 (1)	1 (1)		1
計		2 (2)		2 (2)	6 (2)	2	1 (1)	2 (2)	1	2

():内兼務

4. デイサービス登録者数（令和6年3月31日現在）

DS こんぜの郷	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	
50代	60代	70代	80代	90代	100代			
0人	0人	0人	2人	0人	0人			
こんぜDS	事業対 象者	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5		合 計
	0人	15人	16人	6人	1人	0人		38人 男性 11人 女性 27人
	50代	60代	70代	80代	90代	100代		
	0人	0人	4人	19人	15人	0人		

5. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

令和5年度 行事等実施報告書(DSこんぜの郷・こんぜDS)

項目 月	DS こんぜの郷		こんぜ DS		職員研修・会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理	
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
4月	4	ガーデンティー	4	ガーデンティー						
	7	手作りおやつ	7	手作りおやつ						
	13	握り寿司	13	握り寿司						
	19	アメリカンドッグ	19	アメリカンドッグ						
	24	たこ焼き	24	たこ焼き						
5月	11	合唱	11	合唱	28	認知症カフェ				
	18	リハビリ体操	18	リハビリ体操						
	24	出前ランチ	24	出前ランチ						
	30	玉入れ	30	玉入れ						
6月	1	箱の中身はなに？	1	箱の中身はなに？	3	運営推会議				
	7	手作りおやつ	7	手作りおやつ	18	認知症カフェ				
	21	制作	21	制作						
	27	四つ葉探し	27	四つ葉探し						
	30	私は誰でしょう？	30	私は誰でしょう？						
7月	1	七夕飾り	1	七夕飾り	30	認知症カフェ				
	14	花器づくり	14	花器づくり						
	18	手作りおやつ	18	手作りおやつ						
8月	2	かき氷	2	かき氷	27	認知症カフェ				
	10	すいか割り	10	すいか割り						
	24	バランスゲーム	24	バランスゲーム						
	29	出前ランチ	29	出前ランチ						
9月	7	カップでリレー	7	カップでリレー	24	認知症カフェ				
	12	お金釣りゲーム	12	お金釣りゲーム	20	認知症対応型小・ビジネス事業者管理者研修				
	18	敬老の日	18	敬老の日						
	26	運動会	26	運動会						
10月	4	ピンポン入れ	4	ピンポン入れ	6	新人研修	5	消防訓練		
	7	焼き芋パーティー	7	焼き芋パーティー	29	認知症カフェ	5	防犯訓練		
	11	新聞相撲	11	新聞相撲						
	23	フワワーアレンジメント	23	フワワーアレンジメント						
	27	出前ランチ	27	出前ランチ						
11月	3	ビンゴゲーム	3	ビンゴゲーム	26	認知症カフェ				
	16	カラオケ	16	カラオケ						
	21	連想ゲーム	21	連想ゲーム						
	30	今飛んだの何？	30	今飛んだの何？						
12月	7	ティーパーティー	7	ティーパーティー	17	認知症カフェ				
	22	忘年会	22	忘年会	9	運営推進会議				
	25	クリスマス会	25	クリスマス会						
	27	お金釣り	27	お金釣り						
	30	一年を振り返って	30	一年を振り返って						
1月	4	福笑い	4	福笑い	28	認知症カフェ				6
	6	新年祝賀会	6	新年祝賀会						
	9	都道府県お土産クイズ	9	都道府県お土産クイズ						
	16	ロープで競争	16	ロープで競争						
	24	リハビリ・出前ランチ	24	リハビリ・出前ランチ						
2月	30	おぜんざい	30	おぜんざい						
	1	おやつバイキング	1	おやつバイキング	25	認知症カフェ				
	3	節分の日	3	節分の日	8	安全運転管理者講習				
	5	神経衰弱	5	神経衰弱						
	20	おでんの日	20	おでんの日						
3月	28	リハビリ	28	リハビリ						
	1	今飛んだの何？	1	今飛んだの何？						
	4	ひな祭り	4	ひな祭り	24	認知症カフェ				
	6	リハビリ	6	リハビリ	8	運営推進会議				
	27	リハビリ	27	リハビリ						

八起会栗東居宅介護支援事業所

(令和5年度 総括)

1. 総括

令和5年度は7月に職員の減数に伴い、八起会石部居宅介護支援相談所に17名移管し、特定事業所加算ⅡからⅢに変更を行った。登録利用者数は年間延べ利用者1,388名(月遅れ算定)で前年対比192名の減となった。経営面では、サービス活動収益19,938千円、人件費16,337千円、物件費等3,173千円、減価償却費690千円でサービス活動増減差額は▲261千円となり、目標は達成できなかった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5年度	19,938	16,337	3,173	690	▲261
4年度	22,981	16,614	2,925	808	2,634
3年度	25,993	17,409	3,350	567	4,667

<活動報告>

- ・職員の人員減に伴い、利用者の担当移行を八起会石部居宅介護支援相談所に滞りなく行い、利用者、利用者家族、各関係機関に迷惑かけることなく信頼回復に努めた。
- ・24時間連絡体制により、独居世帯、高齢者世帯や介護力が不十分な世帯、また虐待、経済的困窮世帯などの困難な介護ケースも受け入れ、各関係機関との連携を密にして、地域の方々や行政に信頼される事業所としての役割を果たした。
- ・地域に根差した居宅介護支援事業所として、栗東市及び葉山地域支援包括支援センターにおいて、民生委員とケアマネジャーの交流会に参加し、それぞれの役割について話し合い、相談したいことなどの意見交換会を行った。
- ・職員の資質向上では、他法人の居宅介護支援事業所と合同でACP(アドバンス・ケア・プランニング 人生会議)の研修会や市内サービス事業所の特色等の情報交換会を実施した。また、栗東市長寿福祉課及び栗東市地域包括支援センターが実施した虐待防止研修会や介護給付適正化研修、BCPに係る救命救急講習に参加した。また介護支援専門員としてのスキルアップを目的とした議題や利用者に関する情報の共有の勉強会を週1回開催した。

2.年間延べ利用者数(上段:要介護 下段:要支援)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
113	111	104	90	91	88	79	78	75	95	94	87	1,105
27	26	25	22	22	23	20	20	20	26	26	26	283

要介護利用者: 1,105人月平均 92.1人 (令和4年度:1,294人 月平均 107.8人)

要支援利用者: 283人 月平均 23.6人 (令和4年度: 286人 月平均 23.8人)

3. 職種別職員数 令和6年3月31日現在)

	介護支援専門員
常勤	4
非常勤	1
合計	5

グループホームみなくち
デイサービスセンターあさひがおか
(令和5年度 総括)

1. 総括

(1) グループホームみなくち

令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが5類感染症になり感染対策も緩和されてきたが、市内の高齢者施設でのクラスターなど発生している状況であり、高齢者が入居するグループホームでは未だ感染対策は必要な状況である。前年度はクラスターを発生させてしまう事態となったが、今年度は感染対策を継続し利用者が感染することなく、入居者家族にも安心していただけた。

・年間の平均利用率は96.7%で、前年度の94.8%を上回る結果であった。空床を少しでも抑えるため、令和5年4月1日より短期利用認知症対応型共同生活介護を導入した。結果的には、入居者の入院時など急な際に利用される方はおられなかったが、退居から入居まで時間を要するとわかった時点で居宅支援事業所や利用者へお知らせし1週間ではあるが利用していただくことができた。

・ゾーニング環境整備事業費補助金を受け、陰圧面会ブースを設置したことにより冬期間中においても面会を継続することができ、入居者家族からも喜ばれた。引き続き感染対策をしながら入居者と入居者家族の関係を絶やすことがないように努めたい。

・本年度は退所者4名のうち、2名はグループホームで終末期を迎えられ安らかに永眠された。入居者家族から穏やかに最期を迎えられたことに大変感謝された。

・運営推進会議では、地域の民生委員・区長・地域包括・家族代表が参加し、地域の現状や困りごとを知ることができた。地域高齢者の数も増加しており地域活動がしづらい状況となっており、その中で福祉施設として何を求められ何ができるのかを話し合う場面があり、次年度はその内容を課題として進めていく予定です。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5年度	99,206	69,891	20,049	8,663	603
4年度	97,105	75,788	21,462	8,479	▲8,625
3年度	93,628	64,333	19,137	9,440	718

(2) デイサービスセンターあさひがおか

認知症であっても可能な限り住み慣れた地域や自宅でいつまでも生活することができるよう、利用者の社会的孤立感の解消および心身機能の維持並びに利用者家族の身体的及び精神的負担の軽減を図れるよう努めた。認知症対応型通所介護の特徴である「少人数制」を最大限に活か

し、一般のデイサービスとは違った個別の対応を重視し、本人のペースに合わせ柔軟に対応することができた。

居宅介護支援事業所の介護支援専門員とも密に関係を深め、重度な認知症の方でもお互いに理解・協力しながら対応することができ、信頼を置かれている事業所になってきていると感じるところである。

・年間の平均利用率は54.8%と、前年度に比べて約17%上昇した。目標の55%にはあともう一歩という結果となったが、職員一人ひとりがサービスの質にも利用率にも高い意識を持ち取り組むことができた。

・利用者家族には、毎回利用者の写真と日記をノートにし、利用者の様子を利用者家族が把握しやすいよう工夫することで喜んでいただき、また担当ケアマネジャーにもそのサービス内容を他の利用者へ宣伝してもらうことができた。

・毎月の実績を郵送ではなく、職員が直接介護支援事業所に持っていくことで、ケアマネジャーとの接点も増え、信頼関係を深めていくことができた。

・頭脳、指先、身体の3点を活用する1日の流れを構築し、利用者家族に対して認知症の進行予防に努める活動を進めることができた。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
5年度	23,552	13,396	4,842	1,861	3,453
4年度	15,688	9,793	4,073	1,884	▲61
3年度	20,885	10,178	4,020	1,837	4,850

2. 年間延べ利用者数、月別利用率

グループホームみなくち

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用率	97.04	94.27	98.52	97.67	100.0	100.0	98.57	92.78	93.91	90.50	97.51	100.0	96.73
延べ入所者数	538	529	540	558	558	523	558	536	545	558	504	558	6,505
入院・外泊者数	16	8	8	13	0	0	8	34	31	44	0	0	162

デイサービスセンターあさひがおか

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用率	43.75	50.00	52.65	53.75	52.54	59.92	54.55	58.71	53.99	60.42	63.49	53.97	54.81
登録者数	17	17	15	15	15	17	16	17	16	16	17	14	192
延べ利用者数	105	138	139	135	145	150	144	154	149	145	159	136	1,699

*登録人数は各月末時点

3. 職種別職員数（令和6年3月31日現在）

	管理者	事務員	計画作成 担当者	生活相談員	機能訓練 指導員	介護職員		その他
						常勤	非常勤	
グループホーム みなくち	1	1	1 (1)	0	0	11 (1)	3	1
DS あさひがおか	(1)	(1)	0	2 (2)	1 (1)	2 (2)	2	0
計	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	13 (3)	5	1

*管理者、事務員はグループホームみなくち、デイサービスセンターあさひがおか兼務（ ）は兼務

*計画作成担当者は介護職員との兼務

4. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

